

平成 30 年度

事業報告書



公益財団法人 国際交通安全学会
International Association of Traffic and Safety Sciences

平成 30 年度第 8 期(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)の
事業活動について、次の通り報告いたします。

平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人 国際交通安全学会

会 長 武 内 和 彦

目次

平成 30 年度事業活動の概況	1
1. 事業目的	2
2. 事業内容	2
3. 展開にあたっての重点	2
4. 平成 30 年度の主な活動	2
5. 主たる会議	3
1)評議員会	3
2)理事会	3
3)創 50 戦略会議	4
4)企画調整委員会	5
5)「人」委員会	6
6)年次交流会	7
6. その他	8
国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業	13
I 研究調査事業	14
1. 平成 29 年度研究調査報告会	14
2. 平成 30 年度研究調査プロジェクト	15
<1801C>(継続)	
国際比較:道路交通安全の目標設定と交通文化	
ー道路交通安全技術・制度・文化に関する国際比較研究ー	16
<1802C>(継続)	
東南アジアにおける情報共有型交通安全対策スキームの実施支援	18
<1803B>(継続)	
アジアにおける ITS 導入に関する調査およびガイドライン作成の研究	20
<1804A>(新規)	
都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割	22
<1805A>(新規)	
自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会	24
<1806A>(新規)	
児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か	
～教育普及スキームの構築研究～	26

<1807B>(継続)	
健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究	28
<1820 社会貢献>	
通学路 Vision Zero -通学路総合交通安全マネジメント普及に向けた発信活動	30
<1821 社会貢献>	
カンボジアにおけるクロスセクター連携を通じた交通安全教育の実施	32
<1822 社会貢献>	
インクルーシブサイクリングの手引きを活用した 障がい者自転車教育プログラムの地域展開	34
<1840B 国際連携>(継続)	
インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と社会実装の取り組み ～持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を視野に～	36
<1841A 国際連携>(新規)	
二輪車文化を活かし安全を基本とした ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案	38
<1830 海外調査>	
諸外国における交通関連施策の計画及び実施状況と関連情報調査	40
<1870 国際発表>	
1704C「カンボジアにおける安全な交通社会実現へ向けたクロスセクター連携モデルの構築 ～『規範意識』の形成と適切な『運転行動』の促進～」	42
3. 平成 30 年度研究調査内部報告会	43
4. 話題提供による自由討議(IATSS サロン)の開催	43
5. 研究調査部会企画委員会	43
II 広報出版事業	44
1. 広報出版部会 学会誌編集委員会	44
2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会	45
III 褒賞事業	48
1. 第 39 回(平成 29 年度)国際交通安全学会賞贈呈式	48
2. 第 40 回(平成 30 年度)国際交通安全学会賞	48
3. 平成 30 年度褒賞助成部会企画委員会	54
IV IATSS フォーラム事業	56

V 国際交流事業	62
1. 国際フォーラム実行委員会.....	62
2. ATRANS(Asian Transportation Research Society)への業務委託.....	63
3. 日仏ワークショップ(日本交通心理学会との共催).....	64
4. ESRA2 プロジェクトへの参画.....	65
5. 海外研究機関等とのネットワークの強化.....	65

財務諸表	67
1. 貸借対照表.....	68
2. 正味財産増減計算書.....	69
3. 正味財産増減計算書内訳表.....	71
4. 財務諸表に対する注記.....	73
5. 財産目録.....	74

監査報告書(別紙)

平成 30 年度事業活動の概況

1.事業目的

「理想的な交通社会の実現に寄与する」

2.事業内容

- 1)交通及びその安全に関する調査研究
- 2)交通及びその安全に関する研究会の開催
- 3)交通及びその安全に関する情報、資料及び文献の収集及び発行
- 4)交通及びその安全に関する調査研究、教育その他の活動に対する褒賞
- 5)諸外国における理想的な交通社会の実現に向けた研修
- 6)その他本会の目的を達成するために必要な事業

3.展開にあたっての重点

- 1)学際性並びに国際性を特徴とした先見性及び実際性を目指す、活力ある事業運営
- 2)社会及び経済環境を直視した事業規模とし、予定される収入を基とする効率的かつ均衡のとれた事業運営の継続

4.平成 30 年度の主な活動

1)創立 50 周年(2024 年)に向けた国際性の強化

創 50 戦略会議及び国際フォーラム実行委員会を中心に国際性の高い事業の充実に努めているところであるが、「第 4 回国際フォーラム(GIFTS)」においては、「比較文化の視点から交通安全を考える」をテーマとしたシンポジウムと「交通文化と交通安全に関する国際ワークショップ」を開催、国内外より会員を含む多数の研究者が参加し、活発な討議が行われた。また、日本交通心理学会との共催により、IFSTTAR(仏)との「日仏ワークショップ」を実施したほか、学会関係者の交流をはかるために新設した「年次交流会」でも海外より講師を招聘し特別講演を実施した。

各研究調査プロジェクトにおいても、海外での研究や国際連携に積極的に取り組み、創 50 戦略プロジェクトからの発展として、Vias institute(ベルギー)が所掌する多国間の文化比較調査プロジェクト「ESRA2」への参画を決め、研究調査活動の国際性の強化につなげた。

2)出版事業の高度化

IATSS Review では、より多くの読者へ閲覧および投稿の機会を提供し、読者にとっての有用性を高めること、及びジャーナルの信頼度向上を図ることを目的に、多くの主要な文献サイトと連携した J-STAGE への電子ジャーナルの本公開を開始した。また、IATSS Research においては学術誌としてのパフォーマンスの向上に努めると共に、研究調査活動との連携を強化するため、研究調査プロジェクト関連の特集の掲載にも努めた。

3)IATSS フォーラムの参加国拡充と研修内容の高度化

IATSS フォーラムでは対象国拡大に向け、インドから2名の聴講生を受け入れトライアルを予定通り実施し、その結果を踏まえ、本格参加に向けた準備を行った。また、IATSS フォーラム実行委員会では、研修内容の進化のための新研修プログラム企画の方向性に関する検討を、昨年度に引き続き行った。

5. 主たる会議

1)評議員会

第16回評議員会(定時評議員会)(H30.06.07)

経団連会館5階502会議室に於いて開催し、次の(1)、(4)項については承認され、(2)、(3)項については選任された。

- (1)平成29年度事業報告及び決算承認の件
- (2)評議員選任の件
- (3)役員選任の件
- (4)定款第17条、第22条及び第30条並びに評議員会規程第7号の改定の決議

第17回評議員会(臨時評議員会:みなし決議)(H31.03.22)

評議員9名から電磁的方法または書面による全員の同意が得られ次の(1)項について承認された。

- (1)平成31年度事業計画及び収支予算書承認の件

2)理事会

第32回理事会(通常理事会)(H30.05.17)

経団連会館5階503会議室に於いて開催し、次の(1)、(2)項については承認され、(3)項については決議され、(4)、(5)項については報告がされた。

- (1)平成29年度事業報告及び決算書類等の承認
- (2)理事会規程第2号、第6号及び第7号改定の決議
- (3)第16回評議員会(定時評議員会)開催決議
- (4)会長基準第1号改定の報告
- (5)代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告

第33回理事会(臨時理事会)(H30.06.7)

経団連会館5階502会議室に於いて開催し、次の(1)、(2)、(4)項については選定・選任され、(3)項については決議され、(5)項については報告がされた。

- (1)代表理事選定の件
- (2)会員選任の件
- (3)理事会規程第7号及び9号改定の決議
- (4)重要な使用人選任の件
- (5)代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告

第 34 回理事会(臨時理事会)(H31.02.27)

理事の全員から文書による同意する旨の意思表示を得、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかったので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(1)第 17 回評議員会開催の件

(2)平成 30 年度第 40 回国際交通安全学会賞承認の件

第 35 回理事会(通常理事会)(H31.03.13)

経団連会館 5 階 504 会議室に於いて開催し、(1)項については報告がされ、(2)、(3)項については承認され、(4)項については選任された。

(1)代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告

(2)平成 31 年度事業計画書及び収支予算書承認の件

(3)顧問委嘱承認の件

(4)新会員選任の件

3)創 50 戦略会議

「創 50 戦略会議」は、平成 27 年 3 月に会長に最終答申された「基本方針」に基づき、中長期的観点から具体的施策を展開するため設置され、平成 30 年度は下記の事項について審議・承認された。

(1)会議開催実績

第 1 回会議(H30.05.23)

- ・「国際フォーラム実行委員会」の大口敬委員長より、第 4 回国際フォーラム(GIFTS)開催の企画内容について報告があり承認された。
- ・例年「内部報告会」と同日に開催されている「総会」を、別の時期に単独開催する案が上程され、審議された。

第 2 回会議(H30.09.03)

- ・第 4 回国際フォーラム(GIFTS)開催の準備状況について報告がされた。
- ・本年 10 月 23 日と 24 日に予定されている「日仏ワークショップ」の開催につき、IATSS が日本交通心理学会と共催することについて、金子常務理事兼事務局長より説明がされ、承認された。
- ・企画調整委員会から「年次交流会」とその中で開催させる「活動報告会」、「IATSS セミナー」に関して報告された。
- ・「ベルギー道路安全研究所 Vias institute」が所掌する多国間の文化比較調査プロジェクト ESRA2 に IATSS が参加する提案が出され、承認された。

第 3 回会議(H30.12.07)

- ・第 4 回国際フォーラム(GIFTS)開催状況について報告がされた。
- ・創立 50 周年に向けた事業の中長期展開案について審議された。

第4回会議(H31.2.19)

- ・平成31年度以降の創50戦略プロジェクトの展開方針について討議が行われ、創50戦略会議の直轄する活動領域であることが確認されるとともに、PLや予算規模、メンバー構成の方針等について審議され、承認された。

(2)創50戦略会議メンバー(敬称略)

- 議長 竹内 健蔵 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)
- 副議長 大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
- 赤羽 弘和 (IATSS 会員/千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 教授)
- 鎌田 聡 (IATSS 専務理事)
- 金子 裕之 (IATSS 常務理事兼事務局長)
- 上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
- 岸井 隆幸 (IATSS 理事/日本大学理工学部土木工学科 特任教授)
- 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
- 久保田 尚 (IATSS 会員/埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授)
- 篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
- 武内 和彦 (IATSS 会長/(公財)地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長、東京大学 特任教授)
- 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
- 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
- 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
- 蓮花 一己 (IATSS 理事/帝塚山大学 学長)

4)企画調整委員会

(1)シンポジウムの開催(H30.12.17)

- ステーションコンファレンス東京に於いて3人の講演者による「IATSS セミナー」を開催した。

(2)委員会開催実績

第123回企画調整委員会(H30.08.10)

- ・内部報告会と同日開催されていた「総会」を、「活動報告会」と改称し、年末に独立開催されること、及び、昨年「超学際シンポジウム」として開催のイベントを「IATSS セミナー」に改称し、新たに設定した「年次交流会」の中で開催することが決まった。
- ・「人」委員会より新会員候補選考に関する方針と進捗について報告があった。審議の上、提案通りの方針で新会員候補の選考を行うことが承認された。

第124回企画調整委員会(H30.10.31)

- ・「年次交流会」およびその中で開催の「活動報告会」の内容について審議され、承認された。

第125回企画調整委員会(H31.02.13)

- ・新会員候補について「人」委員会からの提案に基づいて審議され、原案通りに承認された。

第 126 回企画調整委員会(H31.03.24)

- ・来年度新任となる各部会委員長も出席し、新旧の委員の間で平成 30 年度の活動状況の共有と今後の課題について討議を行った。

(3)企画調整委員会メンバー(敬称略)

委員長 竹内 健蔵 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)
赤羽 弘和 (IATSS 会員/千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 教授)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
久保田 尚 (IATSS 会員/埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授)
篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

5)「人」委員会

(1)新会員紹介イベントの企画・開催

平成 30 年度の新会員 3 名を既存の関係者へ紹介し、活動の活性化を図るため、以下のイベントを企画/実施した。

IATSS 新会員デビュートーク概要

開催日 : 平成 30 年 9 月 27 日

場所 : ステーションコンファレンス東京

内容 : 新会員からのプレゼンおよびグループディスカッション

新会員 : 鈴木 弘司氏、中尾田 隆氏、秋山 秀樹氏

参加者 : 31 名(新会員 3 名、役員・評議員 7 名、顧問 8 名、既存会員 13 名)

(2)平成 31 年度 新会員候補者の選考・提示

企画調整委員会の意向を踏まえ、当委員会での議論の結果、新会員候補を選考し、企画調整委員会へ提示した。その後、企画調整委員会により上申され、理事会により決議された。

(3)委員会開催実績

平成 30 年度第 1 回「人」委員会(H30.05.29)

- ・平成 31 年度新会員候補選定方法について審議が行われた。
- ・「IATSS セミナー」開催内容について審議が行われた。
- ・IATSS 会員の活動活性化に関する審議が行われた。

平成 30 年度第 2 回「人」委員会(H30.07.10)

- ・新会員デビュートークの開催企画について審議が行われた。
- ・平成 31 年度新会員候補選定方法について、引き続いて審議された。

平成 30 年度第 3 回「人」委員会(H31.01.28)

- ・平成 31 年度新会員候補選定の審議が行われ、会員候補を企画調整委員会に提示することが決定した。

(4)「人」委員会メンバー(敬称略)

委員長 赤羽 弘和 (IATSS 会員/千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 教授)
今井 猛嘉 (IATSS 会員/法政大学法科大学院 教授・弁護士)
岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
羽藤 英二 (IATSS 会員/東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授)
福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

6)年次交流会

研究調査プロジェクト数の増える中、「内部報告会」と「総会」の併催により双方の報告時間が圧迫されていたが、これらを分離し、後者を他のイベントと統合する事により「年次交流会」として実施する事とし、下記要領にて開催された。

年次交流会概要

開催日：平成 30 年 12 月 17 日

場所：ステーションコンファレンス東京

内容：1.活動報告会(旧「総会」に相当)

2.IATSS セミナー

3.特別講演

講演者：Eric Ponthieu 氏 (European Economic and Social Committee)

テーマ：「New EU safe, clean and connected mobility plan」

参加者：56 名

6.その他

1)主な株式保有先の情報

(H30.03.31)

ホンダ開発株式会社

- (1) 名称 ホンダ開発株式会社
- (2) 事務所の所在地 埼玉県和光市本町5番39号
- (3) 資本金等 資本金 785百万円
- (4) 事業内容 ①不動産の売買、賃貸借、斡旋および管理業
 ②損害保険契約代理業
 ③旅行業
 ④土木、建設、設計、監理業
 ⑤飲料、菓子などの販売業
 ⑥食堂、喫茶店の経営
 ⑦自動販売機の管理受託業
 ⑧揮発油、石油製品、液化石油ガス販売業 他
- (5) 役員の数及び代表者の氏名
 役員数 7人(取締役5、監査役2)
 代表者名 大野 直司
- (6) 従業員の数 399人(嘱託社員および契約社員を除く)
- (7) 保有する株式等の数及び全株式等に占める割合
 780万株(持株比率49.7%)
- (8) 保有する理由 当学会創設者から寄附されたもの
- (9) 株式の入手日 昭和60年2月25日
- (10) 当該企業との関係
 人事関係 なし
 資金関係 なし
 取引等 なし

2)許・認可及び登記事項

理事、監事、評議員に関する就任および退任に伴う登記はなし(重任のみ)。

3)理事及び監事

(H31.03.31)

役 職〔勤務〕	氏 名(敬称略)	現職〔国家公務員出身者最終官職〕
会 長〔非常勤〕	武内 和彦	(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)理事長 東京大学特任教授
副会長〔非常勤〕	竹内 弘平	本田技研工業(株)専務取締役
専務理事〔常勤〕	鎌田 聡	本田技研工業(株)特別職 〔中国管区警察局長〕
常務理事〔常勤〕	金子 裕之	本田技研工業(株)主幹
理 事〔非常勤〕	遠藤 昭雄	〔文部科学省国立教育政策研究所長〕
	鎌原 俊二	(株)たいよう共済代表取締役社長 〔大阪府警察本部長〕
	岸井 隆幸	日本大学理工学部土木工学科特任教授
	深澤 淳志	(一財)日本建設情報総合センター理事長 〔国土交通省道路局長〕
	宮寄 拓郎	(株)NTT データアイ特別参与 〔国土交通省自動車交通局技術安全部長〕
	蓮花 一己	帝塚山大学学長
監 事〔非常勤〕	鈴木 雅文	本田技研工業(株)取締役常勤監査等委員
	平田 久美子	税理士/平田久美子税理士事務所

4)評議員

(H31.03.31)

氏名(敬称略)	現職
石川 正	第一生命保険(株)顧問
石附 弘	
尾高 和浩	本田技研工業(株)執行役員
栗原 典善	OFFICE NORI 代表
野田 健	(一財)全日本交通安全協会理事長
野村 義人	(公財)三井住友海上福祉財団専務理事
林 良嗣	中部大学総合研究所教授
樋口 忠夫	
宮田 年耕	首都高速道路(株)代表取締役社長

5)共催等

(1)共催

- ①11th ATRANS Annual Conference ～Transportation for a Better Life～
開催日：平成30年8月24日(金)
場所：Radisson Blu Plaza Hotel (バンコク)
主催：ATTRANS (Asian Transportation Research Society)、(公財)国際交通安全学会

- ②日仏ワークショップ ～交通心理学と隣接領域の現状と将来～
開催日：平成30年10月23日(火)、24日(水)
場所：ステーションコンファレンス東京
主催：日本交通心理学会、(公財)国際交通安全学会

(2)協賛

- ①平成30年春の全国交通安全運動
開催日：平成30年4月6日(金)～15日(日)
主催：内閣府、警察庁、他23機関／団体

- ②平成30年秋の全国交通安全運動
開催日：平成30年9月21日(金)～30日(日)
主催：内閣府、警察庁、他23機関／団体

- ③平成30年度 交通安全フォーラム ～飲酒運転の根絶に向けて～
開催日：平成30年11月8日(木)
場所：甲府市総合市民会館芸術ホール
主催：内閣府、山梨県、甲府市

(3)後援

- ①生活道路交通安全フォーラム ～ビッグデータを活用した交通安全対策の新たな展開～
開催日：平成30年6月21日(木)
場所：星陵会館ホール
主催：国土交通省

- ②第2回「コミュニティ・カーシェアリング」シンポジウム in 石巻 *後援(協力)
開催日：平成30年7月14日(土)
場所：石巻市防災センター ホール 2F
主催：「コミュニティ・カーシェアリング」シンポジウム実行委員会

- ③道路安全診断シンポジウム
開催日：平成30年7月27日(金)
場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館2階121会議室
主催：一般社団法人 交通工学研究会

- ④生活道路のゾーン対策講習会(名古屋)
開催日：平成30年8月27日(月)
場所：名古屋工業大学 NiTech Hall
主催：一般社団法人 交通工学研究会

⑤ラウンドアバウトサミット in 軽井沢

開催日：平成30年10月25日(木)～26日(金)

場所：軽井沢町「軽井沢大賀ホール」

主催：ラウンドアバウト普及促進協議会

⑥2018年トラフィックセーフティフォーラム in 埼玉

開催日：平成30年11月30日(金)

場所：埼玉会館 小ホール

主催：交通教育センターレインボー埼玉、交通教育センターレインボー和光

⑦生活道路のゾーン対策講習会(福岡)

開催日：平成30年12月3日(月)

場所：九州大学医学部 百年講堂

主催：一般社団法人 交通工学研究会

国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業

I 研究調査事業

1. 平成 29 年度研究調査報告会(H30.04.13)

参加者：役員、評議員、顧問、会員、特別研究員、諸官庁、報道関係及び一般参加者 計 215 名
場所：経団連会館 経団連ホール

報告テーマ：

- 1701B 国際比較:道路交通安全の目標設定と交通文化
－道路交通安全技術・制度・文化に関する国際比較研究－
- 1705C 通学路 Vision Zero
－通学路総合交通マネジメントの提案と有効性の検証
- 1707A 健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究
- 1710B 訪日観光客の交通事故リスクの把握と軽減方策に対する学際的・国際的提言

2. 平成 30 年度研究調査プロジェクト

平成 30 年度は、次の 14 件の研究調査プロジェクト等を実施した。

《創 50 戦略プロジェクト》

- 1801C 国際比較:道路交通安全の目標設定と交通文化
ー道路交通安全技術・制度・文化に関する国際比較研究ー

《自主研究》

- 1802C 東南アジアにおける情報共有型交通安全対策スキームの実施支援
1803C アジアにおける ITS 導入に関する調査およびガイドライン作成の研究
1804A 都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割
1805A 自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会
1806A 児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か
～教育普及スキームの構築研究～
1807B 健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究

《社会貢献》

- 1820 通学路 Vision Zero -通学路総合交通安全マネジメント普及に向けた発信活動
1821 カンボジアにおけるクロスセクター連携を通じた交通安全教育の実施
1822 インクルーシブサイクリングの手引きを活用した
障がい者自転車教育プログラムの地域展開

《国際連携》

- 1840B インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と
社会実装の取り組み ～持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を視野に～
1841A 二輪車文化を活かし、安全を基本とした
ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案

《海外調査》

- 1830 諸外国における交通関連施策の計画及び実施状況と関連情報調査

《国際発表》

- 1870 1704C「カンボジアにおける安全な交通社会実現へ向けた
クロスセクター連携モデルの構築
～『規範意識』の形成と適切な『運転行動』の促進～」

<1801C>

国際比較:道路交通安全の目標設定と交通文化 —道路交通安全技術・制度・文化に関する国際比較研究—

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、世界各国における道路交通安全の目標値やその設定に関する地域的差異の由来を客観的に認識し、これらを体系的に理解するために必要となる基礎情報を調査分析するものである。特に、交通安全に関わる道路技術と各種政策、及びその背景となる交通安全意識に着目する。

本年度(第3年度)は、昨年度に引き続き、経済状況や交通文化の異なる9カ国(うち3カ国は昨年度調査完了)を対象として、現地の研究者や行政機関の協力を得つつ、交通安全に対する態度や価値観を測定する Web アンケート調査を実施し、得られた結果の国際比較分析を行った。また、これらの対象国のうちエジプトにて現地調査を行い、行政機関・研究機関において交通安全政策や制度等に関するインタビューを行うとともに、交通実態調査を実施することで、交通事故削減目標設定や交通実態、交通文化の理解を深めるための情報収集を行った。そして、昨年度までに現地調査を実施した対象国(カタール/UAE/イタリア)に日本とエジプトを加えた計5カ国については、これらの結果を包括的に捉え、各国における交通安全政策と、その背景にあるインフラ整備水準、交通安全教育、交通安全意識などとの関係について分析を行い、とりまとめた。

(2) 研究経過

・アンケート調査(H30.04-H31.03)

UAE/UK/フィリピン/エジプト/中国/ドイツにおいて Web(一部紙媒体)調査を実施(日本/イタリア/カタールは昨年度完了)し、基礎集計、比較分析を実施。

・第1回研究会(H30.05.10)

・ベルギー/ドイツ調査および打合せ(H30.08.14-20)

類似の国際アンケート調査 ESRA の状況把握と連携調整のため、Vias institute(ベルギー)にて調査・打合せ。ダルムシュタット専門大学にてアンケート調査実施の準備・打合せ。

・第2回研究会(H30.09.03)

・エジプト調査(H30.09.10-16)

道路交通安全に関わる目標設定とその実態把握のため、行政機関・研究機関でのヒアリング、交通状況視察、およびアンケート調査実施に関する打合せ(カイロ)。

・第3回研究会(H30.10.19)

・第4回 GIFTS 交通文化と交通安全に関する国際ワークショップ(H30.11.03)

プロジェクトメンバーが発表・議論に参加(国連大学)。

・第4回研究会(H30.12.25)

・第5回研究会(H31.02.20)

・IATSS-Vias International Joint Workshop on Traffic Safety Culture and Safety Policy (H31.03.28)

Vias institute と共同でワークショップを開催し、アンケート調査の分析結果を中心に、発表・議論(ブリュッセル)。

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
堀口 良太 (IATSS 会員/(株)アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

- 井上 勇一 (IATSS 顧問/東京都市大学国際部 担当部長)
橋本 鋼太郎 (IATSS 顧問/株NIPPO 顧問)
康 楠 (東京理科大学理工学部土木工学科 嘱託助教)
後藤 梓 (国土交通省国土技術政策総合研究所道路交通研究部高度道路交通システム研究室 研究官)
塩見 康博 (立命館大学理工学部環境都市工学科 准教授)
鈴木 一史 (群馬工業高等専門学校環境都市工学科 講師)
中井 宏 (大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)
宮坂 優斗 (内閣府 政策統括官(共生社会政策担当)付 参事官(交通安全対策担当)付 交通安全企画調査専門職)
Abu-Lebdeh, Ghassan (Professor, American University of Sharjah, UAE)
Ahmed, Shawky Mohamed (Associate Professor, Ain Shams University, Egypt)
Alhajyaseen, Wael K.M. (Assistant Professor, Qatar Transportation and Traffic Safety Center, Qatar University)
Tang, Keshuang (Professor, Tongji University, China)

研究協力者

- Akandwanaho, Edwin (名古屋大学大学院博士後期課程学生/ウガンダ)
Toquero, Ivy Kristine (フィリピン公共事業・道路局)

<1802C>

東南アジアにおける情報共有型交通安全対策スキームの実施支援

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、鎌ヶ谷市で成功した交通事故およびヒヤリ体験情報の共有を中核とした交通安全対策スキームを、マレーシア(ペナン)、タイ(スパンブリ・コンケン)の状況に適合させ、現地での自律的運用体制への移行を目指すとともに、データ収集・分析の高度化と知識・経験の国際的共有を目指すものである。今年度活動実績は以下のとおりである。

[全体]

日本の多数の効果評価結果を実装したデータベースを英語化し、実績が少ない地域においても適切な安全対策を検索・選定すること、および各国の実情を反映したデータの蓄積を可能とした。

[マレーシア]

マレーシア科学大学と連携し、対策対象箇所の CCTV データ分析を共同実施し、有効な対策案を検討した。また、ヒヤリ体験データの安全運転管理への適用の一步として、現地バス会社の運転手を対象にヒヤリ体験の収集と共有を教育機会とするワークショップを開催した。

[タイ]

スパンブリで第3回・4回、コンケンで第2回のワークショップをそれぞれ開催した。昨年度同様、問題箇所の把握と適切な対策の提案、及び対策実施箇所の確認を行った。また、これまで蓄積したヒヤリ体験データを元に、ヒヤリハットの内容を類型化し、どこでどのような危険事象が発生しているのかを把握した。更に、日常の住民の交通行動を地図上に重ねることにより、危険な横断箇所や逆走区間が生じる原因を明らかにした。

(2) 研究経過

全体会議

- ・第1回研究会(H30.04.24)
- ・第2回研究会(H30.11.14)
- ・第3回研究会(H31.02.18)

マレーシアチーム会議

- ・第1回研究会(H30.04.20)
- ・第2回研究会(H30.06.27)
- ・ペナン市との対策対象箇所協議、及び Rapid Penang バスドライバーを対象としたワークショップの開催(H30.07.16-19)
- ・スカイプ打合せ(H30.08.09)
- ・第3回研究会(H30.09.03)
- ・スカイプ打合せ(H30.10.22)
- ・スカイプ打合せ(H31.01.22)
- ・スカイプ打合せ(H31.03.14)

タイチーム会議

- ・第1回研究会(H30.05.15)
- ・第2回研究会(H30.07.24)
- ・スパンブリ市第3回ワークショップ開催、危険箇所視察(H30.08.28-30)
- ・第3回研究会(H30.11.06)

- ・コンケン市第2回ワークショップ開催、危険箇所視察(H31.03.05)、及びスパンブリ市第4回ワークショップ開催、危険箇所視察(H31.03.06)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 赤羽 弘和 (IATSS 会員/千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 教授) マレーシアチームリーダー
- 福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授) タイチームリーダー
- 大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
- 小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
- 中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)
- 中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 理事・副学長)

特別研究員

- 高田 邦道 (IATSS 顧問/日本大学 名誉教授)
- 松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター 代表)
- 秋山 尚夫 (交通運用研究所 代表)
- 大野 優治 (交通運用研究所 技術顧問)
- 奥津 健太 (日本大学理工学部 修士課程)
- 奥山 祐輔 (黒井産業(株) R45・日の出自動車学校 総務部長代理)
- 親松 俊彦 (株開発技術コンサルタント 技術顧問)
- 小早川 悟 (日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
- 田沢 誠也 (首都高速道路(株) 技術コンサルティング部 部長)
- 西田 泰 ((公財)交通事故総合分析センター研究部 特別研究員 兼 研究第一課長)
- Addnan Bin Mohd Razali (City Secretary, City Council of Penang Island, Malaysia)
- Ahmad Farhan Bin Mohd Sadullah (Professor, Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
- Khairur Rahim Bin Ahmad Hilme (Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
- Mustaqin Bin Alpi (Penang State Secretary Office, Malaysia)
- Nabilah Naharudin (Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
- Rajendran A/L P.Anthony (Director of Engineering Department, City Council of Penang Island, Malaysia)
- Shahrel Azmin Suandi (Associate Professor, Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
- Thaned Sathienam (Assistant Professor, Khon Kaen University, Thailand)
- Yong Woo Soon (Engineering Department, City Council of Penang Island, Malaysia)
- Zainuddin Bin Mohammad Shariff (Engineering Department, City Council of Penang Island, Malaysia)

オブザーバー

- 完山 洋平 ((独)国際協力機構 社会基盤・平和構築部 計画・調整課 兼 交通運輸・情報通信グループ第一チーム)
- 熊澤 雪絵 ((独)国際協力機構 社会基盤・平和構築部 運輸交通・情報通信グループ第一チーム)
- 田中 顕士郎 ((独)国際協力機構 社会基盤・平和構築部 運輸交通・情報通信グループ第一チーム 企画役)
- 中村 謙太郎 (国土交通省 総合政策局 国際政策課 国際協力官)
- 南部 繁樹 (株トラフィックプラス 代表取締役社長)
- 福島 広志 (国土交通省 総合政策局 海外プロジェクト推進課 海外プロジェクト推進官)
- 福田 トウエンチャイ (ATRANS 事務局長・日本大学理工学部 研究員)
- 本間 智貴 (国土交通省 総合政策局 国際政策課)

<1803C>

アジアにおける ITS 導入に関する調査およびガイドライン作成の研究

(1) 研究目的と概要

アジア諸国においては、著しい経済発展とともに、最新の IT 技術を導入した高コストパフォーマンスなシステムの導入が行われている。近年、IoT の浸透によりスマホ等の様々な情報端末が交通情報収集や情報提供に用いられ、Fintech の台頭により ITS が官主導の公共事業から民間主導のビジネスモデルへと進化する流れが顕著であることが明らかになった。本研究では、欧米など先進国を調査して国際標準の動向を把握するとともに、アジアの現状を調査して、最適な ITS の導入方法を検討することを目的とする。

初年度(平成 28 年度)は、アジアを主体とした調査を行い、フィリピンにおける IoT と Fintech を融合した信用とモビリティの創造(Global Mobility Service(株)等)の事例研究を行った。第 2 年度は、欧州から急速に興りつつある MaaS(Mobility as a Service)について調査研究を行い、我が国およびアジアへの導入可能性について考察した。最終年度の本年度は、これまでの成果をもとに、台北において国立台湾大学とシンポジウムを共催した。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(H30.06.05)
- ・第 2 回研究会(H30.08.01)
- ・第 3 回研究会(H30.09.05)
- ・Asia Pacific Symposium on Mobility as a Service (H30.12.27-28)

国立台湾大学とシンポジウムを共催し、3 カ年の研究成果を中心に報告・議論(台北)

- ・第 4 回研究会(H31.02.15)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)

呉 景龍 (IATSS 会員/岡山大学大学院自然科学研究科 教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 理事・副学長)

福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)

特別研究員

太田 勝敏 (IATSS 顧問/東京大学 名誉教授)

長谷川 孝明 (IATSS 顧問/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)

池田 裕二 (国土交通省国土技術政策総合研究所道路交通研究部高度道路交通システム研究室 室長)

伊丹 誠 (東京理科大学基礎工学部 教授)

岩里 泰幸 (国土交通省国土技術政策総合研究所道路交通研究部高度道路交通システム研究室 研究官)

尾崎 晴男 (東洋大学総合情報学部 教授)

坂井 康一 (東京大学生産技術研究所次世代モビリティ研究センター 准教授)

徳増 健 (阪神高速道路(株)事業開発部 プロジェクトリーダー)

中島 徳至 (Global Mobility Service(株) 代表取締役社長執行役員)

牧野 浩志 (国土交通省北陸地方整備局 建政部長)

<1804A>

都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割

(1) 研究目的と概要

未来の都市のあり方を考えるにあたり、都市はサステイナブルであるだけでなくクリエイティブでもあるべきと考えられる。すなわち、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性は大きい。本研究は、それらから派生する交通需要の受け皿として、あるいはそれらの活動を誘引・誘導する仕掛けとしての公共交通の、これまでの、そしてこれからの役割を明らかにすることを目的とする。

今年度は、ミュージカル等音楽関連の活動を取り上げ、それらの活動が活発な海外の都市での、それらの活動と都市公共交通の関連性を明らかにするためヒアリング、ニューヨークとロンドンで現地調査(公共交通・都市計画・劇場の関係者へのヒアリング)を行った。また、人々の余暇活動に関する意識や行動に関する Web 調査を実施したほか、関連文献整理を通して論点を整理した。

調査を通して Theater 都市という切り口での試論を行い、都市の本来のかたちに立ち返り、公共交通の議論を再整理する意義もある程度みえてきた。将来の都市のかたち、つくりこみかたの見直し、そもそもの公共交通および支える交通(アクセス交通や歩行空間)の考え方の見直しの議論を深めていくことが、今後の課題である。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(H30.05.24)
- ・(株)文化科学研究所ヒアリング(H30.07.11)
 - ニューヨーク/ロンドン/日本における劇場等観客の帰宅行動の実態や、それら調査方法に関するヒアリング
- ・第 2 回研究会(H30.07.31)
- ・第 3 回研究会(H30.10.23)
- ・ニューヨーク調査(H30.11.23-28)
 - ニューヨーク市交通局、タイムズスクエアの街づくり組織等関係者へのヒアリング
- ・ロンドン調査(H31.01.21-24)
 - ロンドン市交通局、ウエストエンドの街づくり組織、等関係者へのヒアリング
- ・Web アンケート調査(H31.01)
 - 東京/政令指定都市/ニューヨーク/ロンドンを対象とした、余暇活動と交通手段、アクセシビリティ、主観的幸福感に関する Web アンケート調査
- ・第 4 回研究会(H31.02.06)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 理事・副学長)

白石 真澄 (IATSS 会員/関西大学政策創造学部 教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

藤井 聡 (IATSS 会員/京都大学大学院都市社会工学専攻 教授)

特別研究員

松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター 代表)

出口 敦 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)

馬奈木 俊介 (九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座 主幹教授/都市研究センター長)

三浦 詩乃 (横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 助教)

研究協力者

川端 祐一郎 (京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 助教)

オブザーバー

中野 卓 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任研究員)

<1805A>

自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会

(1) 研究目的と概要

自動運転車両が公道を走行する時期が目前に迫っている。自動運転技術には、期待が高まる反面、様々な懸念も示されている。本プロジェクトでは懸念事項を慎重に検討し、自動運転車と共に暮らす時代の、新たな交通体系を多角的に構想し、成果(新道交法の原案等)を社会に公表することで、より安全な交通社会の実現を目指すことを目的とした研究を行う。

一方「自動運転」にまつわる概念、用語等が多義性を有し、問題点、検討分野も多岐に亘ることより、本年度は超学際的と言える当プロジェクトメンバーの知見の共有化、概念や用語の共通認識をはかりながら国内外の事例を基に、検討分野について多角的に議論を行った。

主な論点

- ・他の車両、歩行者の安全が、現在と同様に配慮、保護されるか？
- ・自動運転車の利用により、人間中心であった交通社会に変化は？
- ・自動運転を実現させる AI と、人間(社会)との関係は？
- ・「自動運転車の社会的受容性(social acceptance)」とは何か？
- ・自動運転車は、道交法等、現在の制度と適合するのか？

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(H30.06.18)
- ・第 2 回研究会(H30.09.05)
- ・第 3 回研究会(H30.10.30)
- ・第 4 回研究会(H30.12.25)
- ・日仏ミニシンポジウム開催(H31.02.25)

「自動運転の時代と交通体系:人間、AI、交通社会」と題し、フランスで自動運転に深く関わる Eric Landot 弁護士を招いてのミニシンポジウムを開催。

登壇者: Eric Landot 弁護士、清水 和夫氏(国際モータージャーナリスト)、
ルブルトン カロリーヌ氏(法政大学)、今井PL

- ・第 5 回研究会(H31.02.26)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 今井 猛嘉 (IATSS 会員/法政大学法科大学院 教授・弁護士)
赤羽 弘和 (IATSS 会員/千葉工業大学創造工学部都市環境工学科 教授)
岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)
久保田 尚 (IATSS 会員/埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授)
篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
菅沼 直樹 (IATSS 会員/金沢大学新学術創成研究機構未来社会創造コア 教授)
杉本 洋一 (IATSS 会員/(株)本田技術研究所四輪 R&D センター第 12 技術開発室 上席研究員)
鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
田久保 宣晃 (IATSS 会員/科学警察研究所交通科学部 部長)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院理工学研究科地球総合工学専攻 教授)
中尾田 隆 (IATSS 会員/東京桜田法律事務所)
中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員/名古屋大学未来社会創造機構人間機械協調制御研究部門 特任准教授)
福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

- 宮寄 拓郎 (IATSS 理事/NTTデータアイ 特別参与)
鶴賀 孝廣 (IATSS 顧問)
長谷川 孝明 (IATSS 顧問/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)
松村 良之 (IATSS 顧問/北海道大学 名誉教授)
矢野 雅文 (IATSS 顧問/東北大学 名誉教授)
横山 利夫 (IATSS 顧問/(株)本田技術研究所四輪 R&D センター第 12 技術開発室 上席研究員)
佐藤 彰俊 (株式会社インターリスク総研新領域開発室)
佐藤 昌之 (ITS Japan 法務・渉外担当)
清水 和夫 (国際モータージャーナリスト)
三浦 清洋 (公益社団法人日本交通計画協会企画室)
ルブルトン カロリーヌ (法政大学大学院法学研究科 博士後期課程)

オブザーバー

- 石附 弘 (IATSS 評議員)
上原 雄二郎 (警察庁交通局交通企画課 課長補佐)
垣見 直彦 (経済産業省自動車課 ITS・自動走行推進室 室長)
杉 俊弘 (警察庁交通局交通企画課自動運転企画室 室長)
間瀬 智哉 (経済産業省製造産業局自動車課 ITS 自動走行推進室)
諸隈 繁浩 (内閣官房日本経済再生総合事務局 参事官補佐)

<1806A>

児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か ～教育普及スキームの構築研究～

(1) 研究目的と概要

本研究の目的は、児童生徒等への効果的な交通安全教育を普及させるための要件を明確にし、教育普及スキームを構築することである。本年度は小学生・中学生・高校生を対象に、交通安全マップづくりなどの教育実践等を通して、普及スキームの4構成要素、①魅力ある教育プログラム、②エビデンス、③教材・評価ツール、④教育支援に関する基礎資料を収集した。

主な調査結果は次の通りである。

- ①教育自体が興味深いものであれば子どもは自ずと主体的に学習しようとする。
 - ②子どもが意欲をもって学ぼうとする教育活動は、教員等の関係者の関心も高めるため、そのことが普及促進の原動力になり得る。
 - ③子どもが実際に通行している交差点の画像を子ども主観の角度で提示することで、横断時の確認行動が促される。
 - ④学校教員は教育実践の初歩的な段階で悩む傾向がある一方で、教育成果を実感することで指導意欲を高めるという一面も示す。
 - ⑤同じ交通問題を抱える諸外国と、教育開発の海外連携を推進できる可能性がある。
- 今後、普及スキーム構築への道筋をより明確にし、その成果を国内外で共有していきたい。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(H30.05.29)
- ・中学生を対象とした教育実践(H30.04.17～H30.05.01)
宮城県亘理町立亘理中学校1年生、2・3年生を対象にワークショップ実施
- ・第2回研究会(H30.06.01)
- ・第3回研究会(H30.06.26)
- ・第4回研究会/宮城高校生サイクルサミット実施(H30.08.03)
- ・小学生を対象とした教育実践(H30.08～H30.12)
高知県の町立枝川小学校集団登下校指導、地域フィールド調査とデータ収集、交通安全マップづくりを通して小学生低学年横断行動評価ツール作成
- ・第5回研究会(H30.11.06)
- ・小学生を対象とした交通安全マップ作り教育の学習過程に関する質的分析(H30.11～H31.02)
- ・第6回研究会(H30.12.21)
- ・第1回アプリ打合せ(H30.12.27)
中学・高校生用自己診断評価ツール開発サブチームによる検討開始
- ・ドイツ調査(H31.01.28-31)
ADAC(ドイツ自動車連盟)、バイエルン州政府、DVR(ドイツ交通安全評議会)、BMVI(ドイツ連邦交通・デジタルインフラ省)を視察し、交通安全施策立案・実施のプロセス、ステークホルダーとの協力関係を調査し、日本の交通安全教育の現状について意見交換実施
- ・第2回アプリ打合せ(H31.01.18)
- ・第7回研究会/第3回アプリ打合せ(H31.02.27)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)

特別研究員

岡村 和子 (科学警察研究所交通科学部交通科学第二研究室 室長)

奥山 祐輔 (黒井産業(株) R45・日の出自動車学校 総務部長代理)

加藤 麻樹 (早稲田大学人間科学学術院 准教授)

神田 直弥 (東北公益文科大学公益学部 公益学部長)

菊池 輝 (東北工業大学都市マネジメント学科 教授)

中井 宏 (大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)

名古屋 武一 ((株)ムジコ・クリエイト 交通安全事業本部 開発推進部 部長)

平田 大輔 ((株)ムジコ・クリエイト 交通安全事業本部 開発推進部 シニアアドバイザー)

吉門 直子 (文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官)

研究協力者

小林 療平 (東北工業大学 学士課程)

<1807B>

健康起因事故防止のための実証的研究と防止対策の普及啓発に関する研究

(1) 研究目的と概要

近年、健康障害が事故の原因である重大な交通事故が増加しており、健康起因事故防止は、交通事故対策の重要な課題である。

本プロジェクトでは、職業運転者を対象に、視野スクリーニング検査ならびに花粉症に関連する眠気や睡眠時無呼吸症候群(SAS)の問診を実施し、これらの健康障害に対する対策法の確立と普及啓発を行うことを目的とした。

平成 30 年度では、2,113 人の職業運転者を対象に、視野欠損の簡易スクリーニングツールであるクロックチャートならびに花粉症に関連する眠気や SAS に関する質問票を用いて調査を実施した結果、以下の点を明らかにした。

- ①日中の眠気は交通事故と有意な関連。
- ②花粉症治療薬で副作用による眠気をおこしづらい薬があることを知らない場合、副作用の眠気により治療を中止する傾向があった。
- ③クロックチャートの所見とびっくり箱現象を組み合わせた時、両方の所見がない者に比べ、両方の所見がある者では有意に交通事故の割合が高かった。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(H30.05.11)
- ・花粉症アンケート、クロックチャート検査を実施(H30.05～H31.02)し、また視野欠損と交通事故との関連、日中の眠気と交通事故との関連、花粉症治療薬の服薬と日中の眠気との関連などについて分析を行った(データ総数:2,113 人分)。
- ・第 2 回研究会(H30.11.26)
- ・第 3 回研究会(H31.02.12)
データ解析結果と課題の共有化を行った。

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働安全衛生総合研究所産業疫学研究グループ 部長)

特別研究員

- 浅野 水辺 (愛媛大学大学院医学系研究科法医学講座 教授)
木村 真奈美 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
国松 志保 (東北大学医学部眼科学 講師)
佐藤 准子 (順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学 助教)
白濱 龍太郎 (順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学 客員講師)
千葉 伸太郎 (東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科 教授)
友岡 清秀 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 助教)
和田 裕雄 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 前任准教授)

研究協力者

- 今井 雄也 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
崎山 紀子 (東京医療保健大学看護学部 助教)
鈴木 洋平 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
嶽山 英佑 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
田島 朋知 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
田中 恵子 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
趙 暁旭 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 修士課程)
村上 歩 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
山戸 健太郎 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 修士課程)

オブザーバー

- 青木 小太郎 (警察庁交通局運転免許課講習係 係長)
川村 和久 (国土交通省自動車局安全政策課安全監理第一 係長)
関本 将司 (警察庁交通局交通企画課企画調査係 係長)
堀井 達也 (警察庁交通局運転免許課 課長補佐)

<1820 社会貢献>

通学路 Vision Zero -通学路総合交通安全マネジメント普及に向けた発信活動

(1) 研究目的と概要

究極的に目指すべき「交通事故死者ゼロ」を、まず通学路から実現するための具体的な仕組みとして、ライジングボラードなどのデバイスを活用した新たな取り組み「通学路総合交通安全マネジメント」を提唱し、2017年度までの3年間で、新潟市と浦添市での試行を踏まえたうえで、ガイドラインを作成した。本研究では、その取り組みをさらに全国の通学路に普及させるきっかけをつくることを目的とした。

① 通学路総合交通マネジメントの「手引き」の発行

2017年度までに作成したガイドラインは、主に道路交通の専門家向けのものであり、取り組み開始後の活用を想定している。今年度作成した「手引き」は、主に学校関係者やPTA、さらに児童生徒などの道路交通の専門家以外の方向けのもので、この取り組みを始めるきっかけとなることを期待するものである。従って、イラストなどを多用し、専門家以外の方にもわかりやすいものとした。

② シンポジウムの開催

「手引き」及びガイドラインを用い、また、新潟市や浦添市での活動事例を紹介し、できるだけ多くの学校でこの取り組みが始まることを目的とするシンポジウムを開催した。

(2) 研究経過

- ・手引き制作打ち合わせ第1回(H30.05.07)
- ・手引き制作打ち合わせ第2回(H30.06.06)
- ・手引き制作打ち合わせ第3回(H30.06.26)
- ・手引き制作打ち合わせ第4回(H30.07.25)
- ・手引き制作打ち合わせ第5回(H30.09.11)
- ・手引き制作打ち合わせ第6回(H30.10.04)
- ・手引き「つくる、あんぜん。」完成(H30.12.14)
- ・手引き Web 公開(H31.01.22)
- ・通学路 Vision Zero シンポジウム(H31.02.01)

国土交通省大宮国道事務所と共催し、大宮ソニックシティにて開催した(参加者約350名)。

- ・第1回研究会(H31.02.14)
- ・ヒアリング調査(H31.02.27)

草加市清門小学校にて実施

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 久保田 尚 (IATSS 会員/埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授)
今井 猛嘉 (IATSS 会員/法政大学法科大学院 教授・弁護士)
岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

- 蓮花 一己 (IATSS 理事/帝塚山大学 学長)
橋本 鋼太郎 (IATSS 顧問/㈱NIPPO 顧問)
長谷川 孝明 (IATSS 顧問/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)
新井 洋史 (警察庁交通局交通規制課規制第一 係長)
池田 博俊 (元新潟市 技監)
五十川 泰史 (国土交通省道路局環境安全課道路交通安全対策室 室長)
伊藤 将司 (㈱福山コンサルタント企画室 室長)
梅野 秀明 (警察庁交通局交通規制課 課長補佐)
上矢 雅史 (文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 交通安全係長)
大榎 謙 (国土交通省道路局環境安全課道路交通安全対策室 課長補佐)
大橋 幸子 (国土技術政策総合研究所道路交通研究部道路交通安全研究室 主任研究官)
越智 健吾 (国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室 室長)
神谷 大介 (琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース 准教授)
菊池 雅彦 (復興省(都市・住宅)参事官)
久野 譜也 (筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授)
小嶋 文 (埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)
酒井 洋一 (国土交通省大臣官房 技術調査官)
坂庭 宏樹 (新潟市土木部土木総務課 副主査)
佐々木 政雄 (㈱アトリエ 74 建築都市計画研究所 代表取締役)
高瀬 一希 (㈱国際開発コンサルタント プロジェクトマネージャー)
竹本 由美 ((一財)国土技術研究センター 上席主任研究員)
知念 悠次 (浦添市都市建設部道路課維持管理係 係長)
西澤 暢茂 (新潟市都市政策部都市計画課 係長)
萩田 賢司 (科学警察研究所)
萩原 岳 ((公社)日本交通計画協会交通計画研究所 技師長)
林 隆史 (元(一財)国土技術研究センター 研究主幹)
松原 悟朗 (㈱国際開発コンサルタント 取締役会長)
望月 拓郎 (内閣府沖縄総合事務局開発建設部 企画調整官)
山中 亮 (㈱中央建設コンサルタント 調査部長)
吉門 直子 (文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全教育推進室 安全教育調査官)

オブザーバー

- 川松 祐太 (国土技術政策総合研究所道路交通研究部道路交通安全研究室 交流研究員)
白井 克哉 ((一財)国土技術研究センター 研究員)

<1821 社会貢献>

カンボジアにおけるクロスセクター連携を通じた交通安全教育の実施

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、平成 27 年度～平成 29 年度(3 年間)に実施した研究調査プロジェクトの成果を踏まえた社会貢献プロジェクトである。これまでの 3 年間で連携を構築した CJCC(カンボジア日本人材開発センター)、IATSS フォーラムカンボジア同窓会、JICA プノンペン事務所、N.C.X Co., Ltd. (Safety Riding Center)、(一社) Social Compass の協力のもと、下記の活動を実施した。

- ① プノンペンの若者(高校生、大学生)を対象にした座学と実技の二輪車安全ワークショップの実施、及び事前事後のアンケート調査による効果評価。
- ② Safety Riding Center のインストラクターを対象とした実技、及び指導のポイントの講習。
- ③ 広くカンボジア都市部の高校・大学等で若者に対する交通安全教育を実施する際、実際に利用できる啓発ビデオ教材の作成。

なお、完成したビデオについては、上記連携先及びカンボジア公共事業・交通省、カンボジア教育・青年・スポーツ省のホームページにリンクを貼っていただくなど、普及のための協力を要請した。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(H30.05.07)
- ・第 2 回研究会(H30.07.17)
- ・ビデオ制作第 1 回ワーキング(H30.08.06)
- ・ビデオ制作第 2 回ワーキング(H30.09.27)
- ・第 3 回研究会(H30.11.05)
- ・ワークショップ開催(H30.11.30-12.01)

第一日目は Safety Riding Center のインストラクター対象のワークショップ、
第二日目は高校生・大学生を対象とした座学及び実技のワークショップを実施した。

- ・第 4 回研究会(H31.01.31)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

- 今井 一登 (大阪市立大学大学院工学研究科 修士課程)
小柳 俊樹 (大阪市立大学大学院工学研究科 修士課程)
中原 かゆき (東京大学公共政策大学院 修士課程)
林 真樹子 (聖心女子大学グローバル共生研究所 助教)
矢野 円郁 (神戸女学院大学大学院人間科学研究科 准教授)
山口 直範 (大阪国際大学人間科学部人間健康科学科 教授)

<1822 社会貢献>

インクルーシブサイクリングの手引きを活用した

障がい者自転車教育プログラムの地域展開

(1) 研究目的と概要

インクルーシブサイクリングとは、主に障がい者の自転車利用に関わる様々な障壁を取り除き、障がいの有無に関わらず自転車を利用することで、社会的孤立や交通に関わる問題を防ぐことを目的とした活動である。この背景には、障がいに対する誤った認識と、国内に自転車の交通教育、安全教育の体系化が確立していないことである。

そこで、こどもの発達段階に応じた自転車教育、障がい者のための自転車教育について、国内外の動向をレビューした。次に、国内で障がい者の自転車利用を支援する団体と協力し、障がい児向けの実技系自転車教育プログラムを構築し、その経験を手引きとしてまとめた。

本年度は、社会貢献プロジェクトとして、その手引きを活用し、①英国ロンドンで開催したワークショップで課題や到達点を共有し、②養護学校においてペダルなし自転車を用いてプログラムを試行した。

その結果、奈良県立奈良西養護学校では、参加した小学部生徒に様々な変化をもたらし、こどもの発達を促す様々な効果を期待できることがわかった。これを踏まえ、学校では教師が新たなプログラムを構築し、教育課程の一部として継続して取り組むことになった。

(2) 研究経過

・第1回研究会(H30.06.11)

・第2回研究会(H30.08.06)

・障がい者自転車教育の手引き作成(H30.09－H31.02)

・ワークショップ開催(H30.09.10－11)

ロンドンで、UCL(University College London)とコラボで障がい者自転車教育に関してワークショップ開催した。

・第3回研究会(H30.10.16)

・奈良県立奈良西養護学校にて手引書検証を兼ねて障がい者自転車教室開催(計3回)
(H30.12.12、H31.01.18、H31.03.01)

・第4回研究会(H31.02.19)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター 代表)

小西 琢也 (大阪市立大学大学院 修士課程)

藤江 徹 ((公財)公害地域再生センターあおぞら財団 事務局長・研究員)

藤山 拓 (UCL)

中野 友香子 (科学警察研究所交通科学部交通科学第二研究室 研究員)

柳原 崇男 (近畿大学理工学部社会環境工学科 准教授)

鎗山 善理子 ((公財)郊外地域再生センターおぞら財団 研究員)

Divera Twisk (オランダ交通安全研究所)

研究協力者

川地 遼佳 (大阪市立大学大学院 修士課程)

<1840B 国際連携>

インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と 社会実装の取り組み ～持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を視野に～

(1) 研究目的と概要

2015年に採択された持続可能な開発目標(SDGs)では、交通事故死亡者数の半減や大気汚染レベルの低減など交通に関する多くのターゲットが設定された。しかし、その実現を確かなものにするためには、各都市における具体的なアクションに落とし込む必要がある。

本プロジェクトでは、交通分野におけるSDGsのターゲットである交通事故削減、持続可能な交通へのアクセス、大気環境の改善をインド小規模都市群において具体的に達成する方法を、インド工科大学のコミュニティーに根ざした取り組みと当学会の領域横断的な知見をフル活用することによって提案し、更に、具体的取り組みの「実施」につなげることを目的とする。

2年目である本年度は、パティアラ市/パンジャブ州、ブランドシャール市/ウッタラプラデシュ州、ナイニタル市/ウッタラーカンド州において、道路交通安全監査の実施、街路デザインガイドラインの作成・提案、ラウンドアバウトの改善などの社会実験を行った。また、大気汚染物質の長期間にわたる計測も実施した。さらに、多くのパブリックエキシビションを開催し、SDGsに対する住民の啓発活動も行った。

(2) 研究経過

- ・IITDとのPL事前打ち合わせ(H30.05.16)
- ・第1回研究会(H30.07.06)
- ・第2回研究会(H30.11.19)
- ・第3回研究会(H31.02.04)
- ・パティアラ市ステークホルダー・ワークショップ参加(H31.02.04)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 福田 敦 (IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)

上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

菊池 浩紀 (日本大学理工学部交通システム工学科 助手)

小早川 悟 (日本大学理工学部交通システム工学科 教授)

Dinesh Mohan (Guest Professor, IITD/Distinguished Professor, Shiv Nadar University)

Geetam Tiwari (MoUD Chair Professor, IITD)

Girish Agrawal (Professor, Jindal Global University)

Sudipto Mukherjee (Volvo Chair Professor, IITD)

<1841A 国際連携>

二輪車文化を活かし安全を基本とした

ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案

(1) 研究目的と概要

ASEAN 地域の多くの国では、自家用車の普及後も自動二輪は利便性、快適性の高さから今もなお生活の足として重用されている。一方で全交通死亡事故に対する自動二輪関連事故は、タイ 74%、カンボジア 73%、マレーシア 62%と大きな割合を占めている。本プロジェクトでは、自動二輪の道路空間における位置づけや優先性(弱者-強者関係)を再考して、安全を基本とした持続可能な交通まちづくりの提案を目的とする。

初年度である本年度は、交通事故死亡率が世界で最も高いタイを対象に事故データの収集、事故状況の可視化、および現地で着用されているヘルメットの安全性の検証を行い、自動二輪の安全に関わる状況を把握した。

さらに、Web 上で訪日・滞日外国人への意識・行動調査を行い、母国での徒歩経験の乏しさによる「歩行者が交通弱者である」との認識の低さ、およびそれに伴う安全意識の低さが、自動二輪利用率の高い国・地域において顕著であることを示した。この結果を受け、自動二輪車から歩行を伴う公共交通やパトランジットへの利用転換を促すための、安全性、ウォークビリティの概念を取り入れた MaaS-LC (Local Context)を試作し、タイのプーケット島でのモニター調査を行った。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会(H30.04.26)

・第 2 回研究会(H30.06.22)

・台湾 INSTITUTE FOR INFORMATION INDUSTRY ヒアリング(H30.07.20)

Motorcycle safety V2X system の開発及び二輪車マネジメントプロジェクトに関するヒアリングを実施。

・訪日・滞日外国人への意識・行動 Web 調査 (H30.12.13-27)、及び追加調査(H31.01.07-02.28)

Web 上にて訪日・対日外国人に対し、来日前後での交通行動の変化及び移動に対する意識の変化を尋ねる調査を実施。

・タイでの自動二輪に関する交通実態調査(H30.12.22-24)、及び MaaS-LC アプリに関するモニター調査(H30.12.22-H31.01.31)

現地の交通の状況をビデオ撮りし、実態を調査。また、現地住民、旅行者へ試作した MaaS-LC アプリの使用及び、その評価を依頼。

・ヘルメット強度試験(H31.02.22-28)

(一財)日本車両検査協会にタイで購入したヘルメット 10 個の強度試験を依頼し、実際の試験を見学。

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働安全衛生総合研究所産業疫学研究グループ 部長)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

井上 勇一 (IATSS 顧問/東京都市大学国際部 担当部長)

長谷川 孝明 (IATSS 顧問/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)

猪井 博登 (富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 准教授)

紀伊 雅敦 (香川大学創造工学部 教授)

山口 直範 (大阪国際大学人間科学部人間健康科学科 教授)

葉 健人 (大阪大学大学院 博士後期課程)

Hsin-Li Chang (Professor, Department of Transportation and Logistics Management,
National Chiao Tung University, Taiwan)

Paramet Luathep (Assistant Professor, Department of Civil Engineering, Faculty of Engineering,
Prince of Songkla University, Thailand)

Sippakorn Khaimook(大阪大学大学院 博士後期課程)

Yi-Shih Chung (Assistant Professor, Department of Transportation and Logistics Management,
National Chiao Tung University, Taiwan)

Yu-Chin Chiou (Professor, Department of Transportation and Logistics Management,
National Chiao Tung University, Taiwan)

<1830 海外調査>

諸外国における交通関連施策の計画及び実施状況と関連情報調査

(1) 研究目的と概要

目的： IATSS 研究調査活動への最新基礎情報の提供と若手研究員の発掘と育成

概要： 学際性を担保するための行政からの研究テーマ提案を踏まえ、若手研究員により調査テーマを設定する

①本年度現地調査に向けた調査チーム編成と企画確認

- ・調査テーマについて異なる視点を持った若手研究員をペアとする事で、異なる視点での調査となるようチーム編成を実施

A チーム: 自動運転に関する法と人の挙動調査

ルブルトン カトリーヌ(法政大学)、吉武 宏(東京大学)

B チーム: 自転車安全教育と交通に関する海外調査

三浦 詩乃(横浜国立大学)、兵頭 知(日本大学)

- ・現地調査の際に多くの経験ができる様、調査対象機関の紹介、調査テーマの調整を実施

②来年度調査テーマ設定準備と調査チームメンバー募集

- ・行政からテーマとなる項目を吸い上げ、関連した現地調査テーマを設定
- ・IATSS 関係者による若手特別研究員の推薦

(2) 研究経過

- ・打ち合わせ会(H30.04.26)

若手研究員の調査内容/目的の説明と調査内容の調整と、調査グループの検討

- ・第1回研究会(H30.06.06)

調査内容の調整とグループを編成

- ・第2回研究会(H30.07.11)

調査地域と期間の調整と内容を精査。「自動運転に関する法と人の挙動調査」の調査対象機関と日程の選定

- ・現地調査(H30.09.11-26)

「自動運転に関する法と人の挙動調査」をオランダ、デンマーク、フランスで実施(A チーム)

- ・第3回研究会(H30.10.03)

「自動運転に関する法と人の挙動調査」の結果報告(A チーム)

「自転車安全教育と交通に関する調査」の調査対象機関とヒアリングの日程調整(B チーム)

- ・現地調査(H30.11.14-23)

「自転車安全教育と交通に関する調査」を米国・デンマーク・オランダ・スウェーデンで実施

- ・第4回研究会(H30.12.05)

「自転車安全教育と交通に関する調査」の結果報告(B チーム)

来年度の海外調査に向けたメンバー選任

- ・第5回研究会(H31.02.21)

本年度調査の内報向け調整

来年度調査の新メンバーの紹介と調査テーマの調整

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

久保田 尚 (IATSS 会員/埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授)

田久保 宣晃 (IATSS 会員/科学警察研究所交通科学部 部長)

中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

蓮花 一己 (IATSS 理事/帝塚山大学 学長)

長田 哲平 (宇都宮大学学術院 助教)

兵頭 知 (日本大学理工学部交通システム工学科 助教)

福島 史人 (自治医科大学大学院医学研究科 博士後期課程)

三浦 詩乃 (横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 助教)

吉武 宏 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士後期課程)

ルブルトン カロリーヌ (法政大学大学院法学研究科 博士後期課程)

オブザーバー

伊藤 麻紀 (警察庁交通規制課 専門官)

蔭山 圭太 (警察庁交通指導課企画 係長)

須藤 悠介 (警察庁運転免許課法令 係長)

関本 将司 (警察庁交通局交通企画課企画調査 係長)

高梨 辰聡 (警察庁運転免許課課長補佐)

西岡 伸洋 (警察庁交通企画課安全 係長)

二宮 健 (警察庁交通企画課 課長補佐)

星野 龍一郎 (警察庁交通規制課規制 係長)

牧 紘 (警察庁交通企画課法令 係長)

<1870 国際発表>

1704C「カンボジアにおける安全な交通社会実現へ向けたクロスセクター連携モデルの構築 ～『規範意識』の形成と適切な『運転行動』の促進～」

(1) 目的と概要

「国際発表」プロジェクトは、以下の目的のため、前年度に実施した研究プロジェクトの中から、著しい成果の認められたプロジェクトに対し、国際的な会議等で発表する機会を設けるものである。

目的:

- ・IATSS の研究成果を国際的に広く周知すること
- ・期待される若手研究者に国際的な会議への参加の機会を提供すること
- ・IATSS の国際的な認知度を向上させること

今年度は、平成 29 年度の研究調査プロジェクトから、1704C「カンボジアにおける安全な交通社会実現へ向けたクロスセクター連携モデルの構築 ～『規範意識』の形成と適切な『運転行動』の促進～」が選出され、その成果をワシントン DC にて開催された「Transportation Research Board (TRB) Annual meeting 2019」において発表した。

(2) 実績

・発表イベント

イベント名 : TRB (Transportation Research Board) 98th Annual meeting 2019

開催地 : ワシントン DC

期間 : 平成 31 年 1 月 13 日～17 日

発表者 : 小柳 俊樹 (大阪市立大学大学院工学研究科 修士課程)

・発表テーマと内容

タイトル : 「A Study on the Effect of Motorcycle Traffic Safety Workshop for High School and University Students in Phnom Penh, Cambodia」

発表形式 : ポスターセッション

Recent Research on Motorcycles and Mopeds

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

発表者(特別研究員)

小柳 俊樹 (大阪市立大学大学院工学研究科 修士課程)

3. 平成 30 年度研究調査内部報告会(H31.03.02)

参加者 : 役員、評議員、顧問、会員および特別研究員 計 114 名
場所 : 経団連会館 ダイヤモンドルーム
報告テーマ : 今年度実施の全プロジェクトテーマ

4. 話題提供による自由討議(IATSS サロン)の開催

第 1 回 IATSS サロン(H30.07.17)

話題提供者:城所 幸弘 会員

テーマ :「交通における『証拠に基づく政策立案 evidence-based policy making, EBPM)』」

第 2 回 IATSS サロン(H30.11.15)

話題提供者:二村 真理子 会員

テーマ :「運輸部門の地球温暖化対策－自動車対策について考える」

5. 研究調査部会企画委員会

1)委員会開催実績

第 1 回委員会(H31.01.08)

- ・来年度の研究調査プロジェクト募集の要領
- ・内部報告会とスケジュール

第 2 回委員会(内部報告会)(H31.03.02)

- ・外部報告会で発表するプロジェクトの選考
- ・国際発表をするプロジェクトの選考

第 3 回委員会(H31.03.04)

- ・平成 31 年度研究調査プロジェクトの選考

第 4 回委員会(PL 会議)(H31.03.15)

- ・平成 31 年度研究調査プロジェクトの内容と予算の整合

2)企画委員会メンバー(敬称略)

委員長 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶応義塾大学環境情報学部 教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)

II 広報出版事業

定期刊行物としては、IATSS Review(国際交通安全学会誌)Vol.43, No.1～3 および IATSS Research(英文論文集)Vol.42, Issue 1～4 を発行した。

1. 広報出版部会 学会誌編集委員会

1)IATSS Review の発行

Vol.43, No.1「特集/モビリティデザインの未来」(H30.06.30)

Vol.43, No.2「特集/離島の生活を豊かにする交通」(H30.10.31)

Vol.43, No.3「特集/コネクティビティの進化と交通」(H31.02.28)

2)J-STAGE への電子ジャーナル公開

平成 30 年 8 月より、J-STAGE への本公開を開始した。

3)委員会開催実績

第 1 回(第 316 回)(H30.07.03)

(1)Vol.43, No.1 発行報告

(2)Vol.43, No.2 依頼原稿の確認報告および審議

(3)Vol.43, No.3 特集企画最終確認

(4)Vol.44, No.1 特集企画検討

(5)投稿原稿の査読者決定

(6)執筆規定・投稿規定の改訂について

第 2 回(第 317 回)(H30.08.30)

(1)投稿原稿の査読報告および審議

(2)Vol.43, No.2 進捗報告

(3)Vol.43, No.3 進捗報告

(4)Vol.44, No.1 特集企画検討

(5)Vol.44, No.2 以降の特集企画について

第 3 回(第 318 回)(H30.11.22)

(1)Vol.43, No.2 発行報告

(2)Vol.43, No.3 依頼原稿の確認報告および審議

(3)Vol.44, No.1 進捗報告

(4)Vol.44, No.2 特集企画検討

(5)投稿原稿の再査読報告および審議

第4回(第319回)(H31.02.20)

- (1)Vol.43, No.3 進捗報告
- (2)Vol.44, No.1 進捗報告
- (3)Vol.44, No.2 特集企画最終確認
- (4)Vol.44, No.3 特集企画検討

第5回(第320回)(H31.03.19)

- (1)Vol.43, No.3 発行報告
- (2)Vol.44, No.1 依頼原稿の確認報告および審議
- (3)執筆規定の改訂について
- (4)Vol.44, No.2 進捗報告
- (5)Vol.44, No.3 以降の特集企画検討

4)学会誌編集委員会メンバー(敬称略)

委員長 篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)

小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)

杉本 洋一 (IATSS 会員/(株)本田技術研究所四輪 R&D センター第 12 技術開発室 上席研究員)

関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)

高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働安全衛生総合研究所産業疫学研究グループ 部長)

羽藤 英二 (IATSS 会員/東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員/名古屋大学未来社会創造機構人間機械協調制御研究部門 特任准教授)

福山 敬 (IATSS 会員/鳥取大学工学部社会システム土木系学科 教授)

二村 真理子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)

2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会

1)定期発行

下記の通り、4号を定期発行した。

- ・Vol.42, Issue 1(H30.04)投稿論文のみ
- ・Vol.42, Issue 2(H30.07)“Beyond ITS: Smart Mobility in Asia”特集
- ・Vol.42, Issue 3(H30.10)投稿論文のみ
- ・Vol.42, Issue 4(H30.12)“Traffic Safety Improvement among the Youth in Asia”特集

2)次年度の発行計画及び特集企画

- ・Vol.43, Issue 1(H31.04 予定)投稿論文のみ
- ・Vol.43, Issue 2(H31.07 予定)「交通事故での外傷患者の現状と予防」特集
- ・Vol.43, Issue 3(H31.10 予定)投稿論文のみ
- ・Vol.43, Issue 4(H31.12 予定)「自動運転自動車の開発動向と社会導入に向けた課題」特集

3)ジャーナルパフォーマンスの確認

- ・定期的に編集委員会にて投稿数、搭載率、被引用率等のジャーナルパフォーマンスを確認した。

4)委員会開催実績

第1回(171回)編集委員会(H30.06.01)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・42-1号発刊報告
- ・42-2号特集論文審査進捗報告
- ・42-3号特集論文審査担当エディターの決定
- ・43-2号特集論文審査担当エディターの決定
- ・投稿論文審査進捗報告

第2回(172回)編集委員会(H30.09.11)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・42-2号発刊報告
- ・42-3号特集発行の延期(42-4号へ)検討
- ・43-2号特集論文進捗報告
- ・43-4号特集企画検討
- ・投稿論文審査進捗報告
- ・新規海外編集委員(推薦候補1名)の検討

第3回(173回)編集委員会(H31.01.08)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・42-3号、4号の発刊報告
- ・43-2号特集論文査読者の決定
- ・43-4号特集論文執筆者選定進捗
- ・投稿論文審査進捗報告
- ・新規海外編集委員(推薦候補者2名)の検討
- ・執筆者に対する倫理情報記載要請についての検討

第4回(174回)編集委員会(H31.03.26)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・43-1号発刊予定
- ・43-2号特集論文審査進捗
- ・43-4号特集進捗報告
- ・投稿論文審査進捗報告
- ・特集号/特集セクション冊子版の発行検討
- ・次年度編集委員会体制について

5)英文論文集編集委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)
木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)
菅沼 直樹 (IATSS 会員/金沢大学新学術創成研究機構未来社会創造コア 教授)
高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働安全衛生総合研究所産業疫学研究グループ 部長)
中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)
松橋 啓介 (IATSS 会員/(国研)国立環境研究所社会環境システム研究センター 室長)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

海外編集委員

●Editorial Board Members (18名)

- K. Bhalla (University of Chicago, USA)
N. Christie (University College London, UK)
A.M. Fillone * (De La Salle University, the Philippines)
M. Hagenzieker (Delft University of Technology, the Netherlands)
S. Han (The Korea Transport Institute, Republic of Korea)
B. Heydecker (University College London, UK)
S. Le Vine (Geography Department, USA & Research Associate, Imperial College, State University of New York at New Paltz, UK)
E. Papadimitriou (Delft University of Technology, the Netherlands)
R.M. Pendyala (Arizona State University, USA)
I. Radun (University of Helsinki, Finland & Stockholm University, Sweden)
N. Saunier * (Polytechnique Montreal, Canada)
N.N. Sze (The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, China)
M. Tira (University of Brescia, Italy)
G. Tiwari (Indian Institute of Technology-Delhi, India)
M. Vanderschuren (University of Cape Town, South Africa)
C. Watling (Queensland University of Technology, Australia)
S.V. Wong (Malaysian Institute of Road Safety Research & University Putra Malaysia, Malaysia)
X. Ye (Tongji University, China)

●Editorial Advisory Board Members (8名)

- R. Allsop (University College London, UK)
B.E. Horn (World Road Safety Institute, PARIM, France)
P. Jones (University College London, UK)
E. Keskinen (University of Turku, Finland)
M.E.H. Lee-Gosselin (Université Laval, Canada)
G.M. Mackay (University of Birmingham, UK)
D. Mohan (Indian Institute of Technology-Delhi, India)
F. Wegman (Delft University of Technology, the Netherlands)

*2018 年度より編集委員

III 褒賞事業

今年度は、第 39 回国際交通安全学会賞の贈呈式を行うとともに、第 40 回国際交通安全学会賞として、業績部門 2 件、著作部門 1 件、論文部門 2 件の授賞を決定した。

1. 第 39 回(平成 29 年度)国際交通安全学会賞贈呈式

平成 30 年 4 月 13 日(金)経団連会館において、平成 29 年度研究調査報告会と合同で開催した。

2. 第 40 回(平成 30 年度)国際交通安全学会賞

《業績部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、研究、施策の推進、普及、啓発、あるいは機器の開発、設備・施設の建設などに多大な業績をあげたものを対象に、過去 3 年以内に成果が顕著となった業績の中から選考される。

例年同様、公募による推薦と委員会メンバーの調査によって、候補業績の情報を収集し、今年度の候補業績 10 件について検討を行った。

その中で、「情報通信技術によるトライシクル運営の新しい事業モデル導入と展開」について、9 月 26 日にヒアリングを行った。また、「鉄道を軸とした地域との連携による地域価値向上の取り組み」について、12 月 19 日に、現地視察およびヒアリングを行い、2 件が選出された。

出典:第 40 回国際交通安全学会賞パンフレット

業績題目: 情報通信技術によるトライシクル運営の新しい事業モデル導入と展開

受賞者 : Global Mobility Service 株式会社

受賞理由:

発展途上国の大都市の都市交通は、一部の地域で高架鉄道等の導入が進んでいるものの、多くは路線バスやタクシーなどで支えられています。実際には地域ごとにさまざまな形態の車両や運営がなされており、バスとタクシーの間の中間的公共交通手段と位置付けられています。これらの多くは生活の知恵に基づいた柔軟で使い勝手のよいシステムという面がある一方で、管理が非近代的であるほか、老朽化した車両を使い続けることによる安全性や大気汚染などの問題、さらには低賃金により運転手が貧困から抜け出せないなどの問題もあります。

本事業は、フィリピンで地区内短距離移動や幹線バス路線アクセス手段などとして身近な足となっているオートバイベースの 3 輪のタクシーであるトライシクルについて、その運営の仕組みの中に情報通信技術を活用していくことで、運営の効率化、運転手の生活水準の向上、その動機付けの強化などを実現し、結果として、ややもすれば前近代的ということで淘汰されがちなシステムを、近代的で効率的かつ運営者、運転手、利用者にとって信頼できるシステム、そしてさらには地域の貧困層の所得を向上させ、運転手になりやすくなるという雇用創出効果も含め地域により一層根付いていくシステム、すなわち持続可能な交通システムに高める道筋を示したものです。

具体的には、フィリピンの貧困層の生活習慣、商習慣、トライシクルの運営実態を徹底的に分析し、それらをもとに情報通信技術を活用した車両管理システム、およびビッグデータも活用し、

運転手への動機付を含めた車両購入に必要なファイナンスの提供可能にする IoT×FinTech サービスを確立しています。トライシクルが地域の交通サービスとして不可欠であることを確認し、低所得者層の中には現金をある程度所有しトライシクル運転手になりたいものの、金融にアクセスできないため今までの金融機関から与信が得られず、トライシクル車両の確保ができない人が相当数いることを踏まえ、かつ、信頼に値するトライシクルの組合があり、すべての運営者と運転手を管理していることを確認した上で、トライシクル車両のローンと管理の仕組みを確立しました。

本事業では、トライシクルの運行状態を車両搭載の GPS や加速度センサー等で把握しビッグデータ化しています。このデータそのものを与信情報とすることで、通常では与信を得られない低所得者が車両ローン、運転手資格を受けられるようにしました。さらに、この運行データや支払い履歴は、運転手および運営者の健全な事業継続を実現させ、トライシクルのファイナンス提供台数拡大へとつながりました。現在マニラでは、2016 年には約 1,000 台であったローン車両が、2018 年には約 4,000 台まで増加しました。これはトライシクルが近代的で持続可能な交通システムに変貌しつつあることを示しているといえます。同社は、さらに、同じスキームをライドシェアで展開し、インドネシアやカンボジアにも拡大しています。

GMS 社のビジネスモデルは、他の発展途上国において都市交通システムの近代化を通じた持続可能な交通体系の形成にも展開可能なだけでなく、我が国も含め、運転手不足に直面している各国の交通サービスの維持発展にも適用可能であり、発展性が高い事業として評価できるものであります。

業績題目： 鉄道を軸とした地域との連携による地域価値向上の取り組み

受賞者： 九州旅客鉄道 株式会社

受賞理由：

平成元年の「ゆふいんの森」から始まった、特別な Design と運行する地域の Story に基づく「D&S 列車」、さらにはクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」の登場は、これまでの「交通手段としての鉄道」を超えて、「鉄道に乗ることそのものを目的」とする新たな方向性を提供しました。

その結果、JR 各社や私鉄に大きな影響を与え、JR 東日本「トランススイート四季島」、JR 西日本「トワイライトエクスプレス瑞風」、JR 四国「四国まんなか千年ものがたり」、東武鉄道「SL 大樹」、東京急行電鉄・伊豆急行「ザ・ロイヤル・エクスプレス」等の観光列車が誕生し、デザインという付加価値を加えることで、鉄道という交通手段が大きなビジネスの創出になることを示し、社会的にも認知され定着してきたといえます。

しかし、JR 九州のこれまでの D&S 列車及びななつ星 in 九州の取り組みを検証してみると、列車のデザインだけではなく、「九州はひとつ」という理念の下、「九州の観光素材の情報発信とブランド化」、「自治体・沿線住民との連携」、および「二次交通との組み合わせ」を中心に、地域資源の価値を高め、地域と共に価値を生み出してきたことこそが、事業の持続性と成長性を支えている要因であることが判ります。具体的には、以下の点が評価されます。

- 1) 「九州の観光素材の情報発信とブランド化」については、D&S 列車やななつ星 in 九州の食事に地元食材を紹介し食材のみならず生産者をも紹介、車内設備に九州の木材や伝統工芸品を積極的に使用することで情報発信の役割を担っています。また、自治体や旅行会社

と共に設立した南九州観光調査開発委員会(H15～H23)にて、「景観整備大賞(景観整備に取り組む地元住民や団体の表彰する)」や「魅力発掘大賞(南九州の観光素材を優れた視点で紹介した新聞、雑誌、テレビ番組を表彰する)」などの取り組み等を実施し、隠れた地域資源を掘り起こし支援してきました。更に、2016 年からは「九州魅力発掘大賞」として全九州に対象を広げ活動を推進してきました。

- 2) 「自治体・沿線住民との連携」では、沿線の住民が列車に手を振る「手をふレール運動」「千本旗プロジェクト(指宿地域)」や、地元駅でのおもてなしとしての「駅弁開発(嘉例川駅など)」「お宿ごとの料理(指宿地域)」「車内での焼酎 PR(球磨焼酎酒造組合)」等の企画、さらに加えて、各地のおかみさん会、ボランティアガイド、地元高校生との連携があります。これらは地域で自発的に行われている活動です。また、熊本地震の 3 週間後にななつ星 in 九州が運転を再開した折には、沿線住民は復興への希望の星と歓迎し、ななつ星を軸とした住民とのつながりが地元テレビでも大きく取り上げられました。九州北部豪雨後のゆふいんの森号の運転再開時には「Smile Again」の言葉の下、地元と協力してお出迎えを実施(地元参加者約 700 名)し、さらには平成 29 年九州北部豪雨後の久大本線全線復旧時にも「つながるプロジェクト」を沿線住民(復旧当日の地元参加者約 7,000 名)とともに実施するなど、地域との連携を深めました。
- 3) 「二次交通との組み合わせ」では、鉄道だけでアクセスできる観光地は少ないため、「市内循環バス“じゅぐりっと号”(人吉地域)」「D&S 列車に合わせたアクセスバスやタクシー観光(日南市・阿蘇)」や町歩きマップの作成等を行い、地域と連携して実施しています。さらに、ななつ星 in 九州はその豪華さに注目が集まりますが、「九州各地をめぐりながら、食や自然や文化など九州の魅力を全国や世界に発信していく」ことが目標であり、沿線住民が列車に向かって手をふることや各地での様々なおもてなしは、沿線住民に自信と誇りを与えており、列車を走らせることの中に社会性や公共性があるからこそ、周囲への広がりが生まれていることがうかがえます。

地方創生は日本にとって大きな課題となっており、JR九州の取り組みは、鉄道というインフラが地域のポテンシャルを引出し高めてきた「地域と鉄道の共存共栄モデル」と言え、今後、全国各地で様々に行われていく鉄道を使った取り組みが、単に豪華列車を走らせるだけでなく、“地域力”を高め持続的な活性化に繋がることが期待されます。

その先駆けとなったJR九州の先進的かつ地域との着実な連携による成果は、他地域への広がり期待されるものであります。

《著作部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、過去 2 年間に初版として刊行された優れた著作・出版物の中から選考される。

今年度は、候補著作 84 点を各委員が分担で査読を行い、審査した結果、1 件が選出された。

出典:第 40 回国際交通安全学会賞パンフレット

著作名 : 交通経済学入門 新版

受賞者 : 竹内 健蔵

受賞理由 :

我が国の交通施策は、欧米諸国と比べ、また近隣アジア諸国と較べても、まだまだ発展の余地を多く残しています。さらなる進展のためには、社会が求める解をもとめて、多様な価値観や背景を持つ人々が集まり、議論を交わすことが必要であります。そのためには、そこに共有されるべきプリンシパルが必須であり、その意味では、一定の合理性を持って施策の価値を見いだすことができる専門家が、適材適所で活躍すべきであります。大学教科書として執筆された本書の意義はまさにその点にあるといえます。専門家を世に供給する役割としての高等教育の意義は、もっとクローズアップされてしかるべきで、本書は、タイトルからわかるとおり、交通経済学分野の入門書として、大学学部生向けの教科書を意識して書かれた学術書であります。筆者の経験と知見を活かして、平易な文体と具体性のある例示で敷居を下げつつ、章を追うにつれて専門性の深みに引き込んでいく構成は、高い完成度であると評価されました。この分野における専門家の育成に役立てられるのは、間違いのないであろうと考えます。

加えて、日常生活で目にする様々な制度や現象について、コラム形式でその意味や原理を紐解くことで、必ずしも専門家ではないビジネスパーソンにも間口を広げていることや、交通×経済というクロスリレーショナルなこの分野ならではのトピックにも章を割くなど、関連の深い土木計画学分野の研究者にも有意義な内容となっていることも、高く評価されました。教科書でありながら、一般書としての意義も十二分に認められます。

これからさまざまな統計や分析結果に触れることになる学生に対して、それらには必然的に恣意性が伴われることを常に意識するよう、その本質を見抜く力をつけるよう、随所で述べているところは、教育者としての筆者の矜持の表れといえます。本書のような良書がきっかけとなり、一人でも多くの専門家が、この分野で活躍することを願う次第です。

《論文部門》

当部門は、国際交通安全学会誌(IATSS Review)及び英文論文集(IATSS Research)に掲載された論文の中から選考される。

今年度は、IATSS Review Vol.42 No.2、Vol.42 No.3、Vol.43 No.1 に掲載された論説 11 編、IATSS Research Vol.41 Issue.3、Vol.41 Issue.4、Vol.42 Issue.1、Vol.42 Issue.2 に掲載された論文 23 編について各委員が分担で査読をし、絞り込みを行い審査した結果、2 件が選出された。

委員会で討議し、学術論文以外の論説であっても、先見性があり社会にとって有用な発信をしていると認められるものも候補に含めることとした。

出典:第 40 回国際交通安全学会賞パンフレット

論文名 : 認知症者の自動車運転能力評価とその課題

受賞者 : 上村 直人

受賞理由 :

高齢ドライバーの認知症をめぐる諸問題について、従来の社会的対応の経緯と現状、今後の課題と将来の方向性などを、学術的な観点から包括的にまとめた論文であり、専門家や関係者だけでなく一般読者にとっても非常に有用な情報が網羅されている点を第一に高く評価します。認知症による大脳機能低下の症状、認知症疾患と交通事故発生との関連性など、文献レビューや著者自身の研究成果を通して、高齢ドライバーの認知症問題の全体像を分かりやすく総説しています。とりわけ、認知症患者を抱える家族の対応は悩ましい問題であり、この点に関して、著者は運転継続の意志のある認知症患者に家族がどのように接するべきかをサポートする心理教育を実践しています。支援マニュアルを活用するなど、この心理教育の効果を調査し分析した著者の研究活動は、実践的かつ斬新な取り組みであり、運転行動の変化や運転中断が促されるなど、学術的にも有意義な知見が報告されています。

認知症診断結果と運転上の問題との関連性については、一概に明確な関係性を見出すことが難しく、診断結果からだけでは運転継続の可否を判断することに限界があり、そのことから、著者は、「運転継続の可否は運転能力で判断すべき」と主張しており、適切な運転能力評価のための医学・工学・心理学による協働作業の必要性を説いています。また、高齢ドライバーに対するカーナビゲーション等の運転支援のあり方や自動運転の開発に関しても、同様に医学・工学・心理学の協働による問題解決を提案するなど、学際的研究を基盤とする本学会にとって、進むべき方向性を示唆するものであると考えます。

論文名 : Impact of vehicle speeds and changes in mean speeds

on per vehicle-kilometer traffic accident rates in Japan

受賞者 : Masayoshi Tanishita、 Bert van Wee

受賞理由 :

この論文は、日本の高速道路における平均速度および速度変化と走行距離あたり交通事故発生率に関するデータを統計的に分析し、両者の関係を実証的に明らかにした興味深い研究成果をまとめたものです。

交通事故の発生率を減らすことは、現在も重要な課題です。死傷者だけでなく、医療費、車両や道路の損傷、事故渋滞等の経済的損失の削減に寄与することが期待されています。事故

の発生の重要な要因の一つとして、速度に注目されています。一般に、高い速度では、ドライバーの反応が難しく、深刻な影響につながる傾向のあることが指摘されていますが、その一方で、低い速度の混雑時には、衝突確率が高くなり、車両間隔が短くなる影響もあります。このように、平均速度と走行距離あたり事故発生率の関係は単純ではないことが指摘されています。

そこで、この論文では、平均速度だけでなく5分間の速度変化にも着目し、走行距離あたりの事故発生率に与える影響について、東名高速道路のデータをもとに分析し、5分間速度変化が事故発生率に影響することを実証的に明らかにしました。その際に、二次元の加法ポワソンモデルを応用した視点が新しい点です。

この分析により、平均時速が110キロから85キロに低下するときおよび平均時速が65キロから90キロに増加するときに事故が増加すると結論づけています。また、曇天の日よりも晴天の日の方が事故率が高いことも見いだしました。これらの成果は、速度の変化が大きくなりにくいように道路の設計や最高速度の規制および誘導をきめ細かく行うこと等の工夫によって、交通事故を削減する対策の可能性の幅を広げるものと考えられます。

本研究は、実証的な分析により交通事故の起きやすい交通状況の特徴を見いだした研究として極めて優れていると考えられます。

3. 平成 30 年度褒賞助成部会企画委員会

1)委員会開催実績

第 1 回委員会(H30.06.05)

- ・褒賞委員会の活動の概要について
- ・年間活動スケジュールについて
- ・「業績部門」「著作部門」の募集と、各部門の選考方法について
- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」査読の割り振り
- ・「論文部門」査読の割り振り
- ・視察日程の仮決定

第 2 回委員会(H30.08.09)

- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査および査読の割り振り
- ・「論文部門」審査および査読の割り振り

第 3 回委員会(H30.10.25)

- ・「業績部門」候補の検討、視察日決定
- ・「著作部門」審査および査読の割り振り
- ・「論文部門」審査および候補決定

第 4 回委員会(H30.12.19)

- ・「業績部門」審査および候補決定
- ・「著作部門」審査および候補決定

第 5 回委員会(H31.01.16)

- ・「業績部門」候補、推薦文担当決定
- ・「著作部門」候補、推薦文担当決定
- ・「論文部門」候補、推薦文担当決定
- ・会員信任投票、理事会、贈呈式の準備

2)視察・ヒアリング

- ・Global Mobility Service(株) ヒアリング(H30.09.26)
- ・九州旅客鉄道 株式会社 視察・ヒアリング(H30.12.19)

3)会員信任投票

候補信任(H31.02.12 締切)

4)理事会

候補承認(H31.02.27)

5) 褒賞助成部会企画委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 久保田 尚 (IATSS 会員/埼玉大学大学院理工学研究科環境科学・社会基盤部門 教授)
- 小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学教職課程センター 教授)
- 斎藤 誠 (IATSS 会員/東京大学大学院法学政治学研究科 教授)
- 永田 潤子 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院創造都市研究科 准教授)
- 中村 文彦 (IATSS 会員/横浜国立大学 理事・副学長)
- 堀口 良太 (IATSS 会員/(株)アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)
- 松橋 啓介 (IATSS 会員/(国研)国立環境研究所社会環境システム研究センター 室長)
- 矢ヶ崎 紀子 (IATSS 会員/東洋大学国際観光学部国際観光学科 教授)

IV IATSS フォーラム事業

国際交流も踏まえた研修事業として、1985年9月に設立され、アジア諸国の若い有望な人材を日本に55日間招請し、各参加国での持続可能な交通・社会の実現に寄与する人材の育成を進めている。

今年度は、年二回のIATSSフォーラムを開催し、対象国拡大に向け、第59回IATSSフォーラムには、インドから2名の聴講生を受け入れトライアルを行った。また、IATSSフォーラム実行委員会では、研修内容の進化について、新プログラムの方向性に関する検討を昨年度に引き続きを行った。

一方、来年度のIATSSフォーラムへ向け、11月中旬から12月中旬にかけて、今年からはインドも含めた10カ国で、各国現地委員会メンバーとともに研修生の選抜を行い、各国4名、計40名の参加者を確定した。

更に、今年度は12月8日、9日に第9回国際同窓生会議をラオスにて開催した。ASEAN9カ国、及び日本の同窓会役員、同窓生、IATSSフォーラム事務局含め約120名がラオスのルアンパバーンに結集し、各国の同窓会活動の情報共有を行い、今後の同窓会活動をどの様に強化していくのか、グループ討議を実施した。

概要は、以下のとおりである。

1. IATSS フォーラム開催

第59回IATSSフォーラム

期間：平成30年5月19日～7月7日

第60回IATSSフォーラム

期間：平成30年9月22日～11月10日

研修生：38名(男性：18名、女性：20名)

国名

カンボジア	4名
インドネシア	4名
ラオス	4名
マレーシア	4名
ミャンマー	4名
フィリピン	4名
シンガポール	4名
タイ	4名
ベトナム	4名
インド	2名(トライアル)

職業

官公庁	15名
大学・教育機関	5名
民間企業	13名
その他(NGO等)	5名

2. 研修プログラム

“Thinking and Learning Together”をモットーに、アセアンと日本の現在の課題を題材としている。テーマを『持続可能な地域づくり』とし、先ず専門家による講義を通してテーマ理解を深めた後、「神戸市の阪神淡路大震災からの復興過程から学ぶ、回復力のあるまちづくり」、「京都市の伝統文化、技術の継承と現代への融合」、「四日市公害から学ぶ、環境保全に取り組みながら進める持続可能な社会作り」の実践状況を現場視察も交えて学んだ。また、一般セミナーや他の視察先でも、研修テーマとの関連性を高めることで、『持続可能な地域づくり』を実現するために様々な分野からのアプローチが必要なことを学んだ。研修最終日には、各視察、講義から学んだことを基に「自国の課題を題材としたグループ研究発表」を行った。

- ・各分野の専門家を講師とし、ディスカッション中心のセミナー
- ・研究課題に対する多角的・論理的な考え方、解決策立案手法を習得するグループ研究
- ・日本とアジア諸国間の相互理解を目指した体験学習と交流イベント

3. 第9回 IATSS フォーラム国際同窓生会議

日程 : 2018年12月7日(金)～10日(月)

場所 : ルアンパバーン(ラオス) Villa Santi Resort & Spa Hotel

参加者 : 約120名 (同窓会代表、ホスト国委員、実行委員、IATSS フォーラム事務局)

目的 :

- ・フォーラム各国同窓会のネットワークの強化
- ・30周年で作成したビジョン、それに基づく今後10年の展開計画をベースに、同窓会、IATSS フォーラムの近年の活動や課題を共有し、今後の発展のために何ができるかを話し合う。
- ・国、世代、専門分野を超えた学びの場を提供することで、10年後のありたき姿である「IATSS フォーラムの新たな価値を見出す」ことに繋げる。

4. IATSS フォーラム部会 IATSS フォーラム実行委員会

1) 委員会開催実績

平成30年度(2018年度)は、8回の実行委員会を開催した。

第121回実行委員会(H30.04.25)

- ・IATSS フォーラム年間スケジュールの確認
- ・新プログラム検討 進捗共有
- ・スタッフ人事情報共有

第122回実行委員会(H30.05.19)

- ・日本同窓会活動報告と今年度計画
- ・第61回、62回 IATSS フォーラム研修生の最終審査日程案の共有
- ・新プログラム検討 進捗共有

第 123 回実行委員会(H30.07.07)

- ・第 61 回、62 回 IATSS フォーラム応募状況の共有、最終審査日程調整
- ・新プログラム進捗共有
- ・カンボジア同窓会プロジェクト提案の確認

第 124 回実行委員会(H30.09.07)

- ・第 61 回、62 回 IATSS フォーラム 2 次審査(書類審査)結果報告
- ・第 61 回、62 回 IATSS フォーラム 最終審査スケジュール調整

第 125 回実行委員会(H30.09.22)

- ・最終審査スケジュール確認(10 カ国)
- ・新プログラム進捗共有

第 126 回実行委員会(H30.11.10)

- ・新プログラム進捗共有
- ・新プログラム推進計画の再確認
- ・最終審査詳細計画、及び、現地共有内容の確認

第 127 回実行委員会(H31.01.19)

- ・第 61 回、62 回 IATSS フォーラム 最終審査結果共有
- ・第 9 回国際同窓会会議(ラオス)の結果共有
- ・新プログラム進捗共有

第 128 回実行委員会(H31.03.27)

- ・新プログラム案に対する意見交換

2) IATSS フォーラム実行委員会メンバー(敬称略)

委員長 上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員/名古屋大学未来社会創造機構人間機械協調制御研究部門 特任准教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

IATSS フォーラム部会特別委員

足立 文彦 (金城学院大学 名誉教授)

溝田 勉 (長崎外国語大学 統括副学長)

3) 現地委員会(敬称略)

IATSS フォーラム研修生選抜のための書類審査/最終面接審査の実施。

・4名/国(合計40名)の研修生の選抜

(1) IATSS フォーラム インドネシア委員会

第34回委員会(H30.11.24)

委員長	Ridwan Gunawan	(前インドネシアモーターサイクル協会会長)
委員	Suprapti Sumarmo Markam	(インドネシア大学 教授)
	Abdi Hamdan	(IATSS フォーラム インドネシア同窓会会長)
アドバイザー	成田 治雄	(アストラホンダ 役員)
事務局	Daniarti Gumulja	(インドネシア事務局)

(2) IATSS フォーラム フィリピン委員会

第28回委員会 (H30.11.27)

委員長	Carol M. Yorobe	(科学技術省 事務次官)
委員	Hilario Sean O. Palmiano	(フィリピン大学交通学研究センター長)
	Aileen S. P. Baviera	(フィリピン大学教授)
	Evangeline P. Bautista	(アテネオデマニラ大学理工学部長)
	Mauro Ariel S. R. Yonzon	(フィリピン文化センター副所長)
	Cleofe Velasques-Ocampo	(IATSS フォーラム フィリピン同窓会会長)
アドバイザー	Delfin C. De Guzman	(ホンダカーズフィリピン副社長)
事務局	Mary Grace R. Poster	(科学技術省)

(3) IATSS フォーラム タイ委員会

第34回委員会 (H30.11.27)

委員長代理	Spawan Wongprayoon	(天然資源環境省 DEQP)
委員	Worrawan Asawakul	(IATSS フォーラム タイ同窓会会長)
オブザーバー	崎谷 唯比古	(在タイ日本国大使館 二等書記官)
アドバイザー	江沢 辰也	(エイシヤンホンダ 社会活動推進部)
	Rachnida Sangethongtong	(エイシヤンホンダ 社会活動推進部)
事務局	Fairda Malem	(天然資源環境省 DEQP)

(4) IATSS フォーラム ベトナム委員会

第23回委員会 (H30.12.01)

委員長代理	Nguyen Canh Binh	(アルファブック社長 IATSS フォーラム事務局長)
委員	Pham Duy Khuong	(IATSS フォーラム ベトナム同窓会会長)
オブザーバー	中馬 愛	(在ベトナム日本国大使館 二等書記官)
アドバイザー	中島 基史	(ホンダベトナム)
事務局	VU Huy Hoang	(ベトナム インテレクチャル コーポレーションセンター)

(5) IATSS フォーラム マレーシア委員会

第 35 回委員会 (H30.12.03)

委員長	Dato' Zuraidah Atan	(ズライダーアタン弁護士事務所)
委員	Siti Muhaza Sh Zainal	(公共サービス部人材開発課副所長)
	Lim Poh Aun	(IATSS フォーラム マレーシア同窓会会長)
オブザーバー	栗原 恵津子	(在マレーシア日本国大使館 一等書記官)
アドバイザー	Ahmad Joeffrey Jasmawi	(ホンダマレーシア副社長)
事務局	Rofina Yasmin Othman	(UMCIC 所長)

(6) IATSS フォーラム シンガポール委員会

第 32 回委員会 (H30.12.05)

委員長	George Abraham	(GA グループ Ltd. 会長兼代表取締役)
委員	Soh Yi Da	(NUSS 管理委員)
	Roy Higgs	(NUSS CEO)
	Tan Swee Leng	(IATSS フォーラム シンガポール同窓会代表)
オブザーバー	杉田 明子	(在シンガポール日本大使館 参事官)
アドバイザー	茨木 健	(ブキバトドライビングセンター 所長)
事務局	Jenny Ng	(NUSS)

(7) IATSS フォーラム カンボジア委員会

第 20 回委員会 (H30.12.11)

委員長	Var Kim Hong	(国境問題上級相)
委員	Khim Leang	(現地事務局長 CJCC 所長)
	Vann Bonida	(IATSS フォーラム カンボジア同窓会会長)
オブザーバー	松本 泉	(在カンボジア日本大使館 二等書記官)
事務局	大西 義史	(CJCC アドバイザー)

(8) IATSS フォーラム インド委員会

第 1 回委員会 (H30.12.12)

委員長	Dinesh Mohan	(シブナダル大学名誉教授・インド工科大学客員教授)
委員	Geetam Tiwari	(インド工科大学教授)
	Girish Agrawal	(シブナダル大学アソシエートダイレクター)
	Shruti Sharma	(LEAD インディア フェローダイレクター)
	Snehil Kumar	(LEAD インディア フェローダイレクター)
オブザーバー	堀 信太郎	(在インド日本国大使館 参事官)
アドバイザー	祐川 浩之	(ホンダモーターサイクル&スクーターインディア)
事務局	Bhawana Luthra	(LEAD インディア エグゼクティブダイレクター)

(9) IATSS フォーラム ミャンマー委員会

第 16 回委員会 (H30.12.15)

委員長	Zaw Min Win	(ミャンマー商工会議所連合会 会頭)
委員	Maung Maung Lay	(ミャンマー商工会議所連合会 副会頭)
	Khine Khine New	(ミャンマー衣料工業協会名誉会長)
	Aung Zaw Oo	(IATSS フォーラム ミャンマー同窓会会長)
オブザーバー	笠井 良真	(在ミャンマー日本国大使館 一等書記官)
事務局	Pyai Pyai Pwint	(ミャンマー商工会議所連合会 47 回生)

(10) IATSS フォーラム ラオス委員会

第 19 回委員会 (H30.12.15)

委員長	Khampong Keoviphakone	(ラオス青年同盟書記官)
委員	Chanthanom Theangthong	(IATSS フォーラム ラオス同窓会代表)
オブザーバー	上川路 ゆり絵	(在ラオス日本大使館 三等書記官)
事務局	Sisomphone Tipanya	(ラオス青年同盟)

V 国際交流事業

1. 国際フォーラム実行委員会

1) 第4回国際フォーラム(GIFTS)の企画

- ・創立50周年に向けて、IATSSの向かうべき方向性を議論する会議体である創50戦略会議との連携のもと、第4回GIFTSの企画を推進
- ・シンポジウムのサマリー及び当日発表PPT資料をホームページで公開した

2) 第4回GIFTS開催概要(敬称略)

①シンポジウム(公開):「比較文化の視点から交通安全を考える」

- 日時 : 11月2日(金)13:30~16:35
場所 : 国連大学3F ウ・タント国際会議場
開会挨拶 : 武内 和彦(IATSS 会長)
趣旨説明 : 大口 敬(IATSS 会員)
基調講演 : 藤森 照信(東京江戸博物館館長/東京大学名誉教授)
司会 : 佐野 充(IATSS 顧問)
パネリスト : Ali Huzayyin(エジプト)、Nhan Tran(アメリカ)、藤森 照信(日本)

②ワークショップ(非公開):「交通文化と交通安全に関する国際ワークショップ」

- 日時 : 11月3日(土)10:30~16:30
場所 : 国連大学5F エリザベス・ローズ国際会議場
開会挨拶 : 大口 敬(IATSS 会員)
趣旨説明 : 中村 英樹(IATSS 会員)
報告Ⅰ : 宮坂 優斗(内閣府)
報告Ⅱ : Wouter Van den Berghe(ベルギー)
調査報告 : Lorenzo Mussone(イタリア)、Keshuang Tang(中国)、
Wael K. M. Alhajyaseen (カタール)、塩見 康博(日本)
意見交換司会: 吉田 長裕(IATSS 会員)
討議司会 : 赤羽 弘和(IATSS 会員)

3) 第5回GIFTSの企画

第5回日程は平成31年10月25日(金)~26日(土)の2日間を予定している。

4) 委員会開催実績

第1回実行委員会(H30.05.11)

- ・全体構成の検討
- ・招聘候補者、セッション内容等検討
- ・今後の進め方

第 2 回実行委員会(H30.07.17)

- ・招聘者打診状況報告
- ・タイムテーブル詳細の検討
- ・追加登壇者の検討
- ・今後の進め方

第 3 回実行委員会(H30.12.21)

- ・第 4 回 GIFTS 結果の共有
- ・中長期計画に関する討議

第 4 回実行委員会(H31.03.14)

- ・第 5 回 GIFTS 開催内容の検討

5) IATSS 国際フォーラム(GIFTS)実行委員会メンバー(敬称略)

委員長 大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 准教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/横浜市立大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

堀口 良太 (IATSS 会員/(株)アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪市立大学大学院工学研究科 准教授)

2. ATRANS(Asian Transportation Research Society)への業務委託

バンコク(タイ)に本拠地を置く ATRANS への研究調査の業務委託とバンコクにて開催されたカンファレンスを共催した。

1)業務委託

下記の 6 テーマの業務委託研究を実施した。

- (1) Understanding Cyclists and non-cyclists' Perceptions on Riding Behaviors : A Key Success of Cycling Promotion
- (2) Self Efficacy Application for Traffic Accident Prevention among Senior People Drivers in Khon Kaen, Thailand
- (3) Influencing change in unsafe driving by road safety education
- (4) In-depth Analysis of Black Spot Characteristics from ATRANS Safety Map Applica
- (5) Modeling of Tailpipe Emission: Case Study of Biofuel in Thailand
- (6) Motorcycle Accidents: Preliminary Analysis from ATRANS Safety Map Applica

< 中間報告会 >

開催日 : 平成 30 年 8 月 23 日

場所 : ATRANS Meeting Room(バンコク)

< 最終報告会 >

開催日 : 平成 30 年 12 月 11 日

場所 : ホンダ八重洲ビル(東京)

2)カンファレンス共催

イベント名： 11th ATRANS (Symposium) Annual Conference

テーマ： “TRANSPORTATION FOR A BETTER LIFE

:Lessons Learnt from Global Experiences To Local Best Practices”

開催日： 平成 30 年 8 月 24 日

場所： Radisson Blu Plaza Hotel (バンコク)

共催内容： セッションの開催、ブース出展など

3. 日仏ワークショップ(日本交通心理学会との共催)

1) テーマ、目的、討議内容

(1)テーマ

交通心理学と隣接領域の現状と将来

(2)目的

交通安全・道路交通の研究に従事する日本とフランスの研究者が日仏に共通する研究、テーマについて討議を行い、相互の交流と学術研究の発展を図る

(3)討議内容

規範意識、安全に対する姿勢の文化差、高齢者及び多様な交通参加者にとっての安全とモビリティ、歩行者・自転車利用者のリスク認知と安全教育、自動運転車環境下におけるユーザー側からみた安全と快適など日仏双方に共通する研究テーマについての討議を行う

2) 開催概要

日程：2018年10月23日、24日(2日間)

場所：ステーションコンファレンス東京

参加者：フランス10名(IFSTTAR* に所属する研究者等)

日本40名(交通心理学を中心とし、人間工学、交通工学など隣接領域含む研究者等)

* Institut français des sciences et technologies des transports, de l'aménagement et des réseaux

形式：2日間で6つのテーマ別セッションを設け、各セッションにおいて、日仏双方から関係する研究発表を行い、研究討議を行う形式

4.ESRA2 プロジェクトへの参画

3年に渡り、IATSS 創 50 戦略プロジェクトにおいて各国交通文化の国際比較調査を実施した中で、同様の観点と目的で「ベルギー道路交通安全研究所」「Vias institute」がとりまとめ/調整を行っている国際プロジェクト“ESRA(E-Survey of Road users’ Attitudes)”の存在を認識した。Vias institute と緊密に情報共有を行った結果、IATSS が日本の研究機関として本プロジェクトに参加することで、国際展開の強化に必要な、組織的で継続的な連携の基盤づくりへの貢献につながることから、創 50 戦略会議にて ESRA2 プロジェクトへコアメンバーとしての参加が決定された。

10 月には Web アンケート調査に向け調査票の日本語翻訳等を実施、それに前後し ESRA2 プロジェクト結果の今後の IATSS での活用等について事務局との打ち合わせを行った。

また 2017 年に完了している ESRA1 プロジェクトレポートの日本国内での関係機関との共有を目的に、日本語訳を完了させた。

5.海外研究機関等とのネットワークの強化

創立 50 周年に向け、国際性の強化の取り組みの一環として交通事故による死傷者削減のための課題の先取り等を目的として、海外の諸機関への訪問を通じたネットワークの新規構築、強化継続活動を訪問先組織との対話や交通に係る国際会議への参加等を通じ今年度も実施した。

【アジア】

- ・AIPF(Asia Injury Prevention Foundation)との対話
- ・SAFETY2018 等参加によるネットワーク作りの継続

【北米】

- ・WRI(World Resources Institute)への IATSS で推進中のプロジェクトの紹介
- ・IRF(International Road Federation)、Safe Kids Worldwide との対話
- ・Polytechnique Montreal(モントリオール理工科大学)との AI を活用した交通事故分析手法の情報交換
- ・AAA Foundation W/S にて自動運転車の社会的影響を議論

【欧州】

- ・WHO、Dr. Nhan Tran, Coordinator, Unintentional Injury Prevention Unit, Department for Management of Noncommunicable Diseases, Disability, Violence and Injury Prevention との対話の継続と GIFTS スピーカーへの招聘
- ・GARS(Global Alliance of NGOs for Road Safety)との IATSS の現在/今後の取り組みに関する対話
- ・IFSTTAR(Institut français des sciences et technologies des transports, de l’aménagement et des réseaux)と自動運転に関する人間工学研究状況の情報交換
- ・TU Delft(蘭デルフト工科大学)と自動運転の産官学連携による取り組みと、大学内連携による課題対応に関する情報交換
- ・VREF(Volvo Research and Educational Foundation)との対話
- ・ITS W/C 等参加によるネットワーク作りの継続

【中東】

- ・ITSC2018(International Traffic Safety Conference:ドーハ)にて基調講演及び IATSS の紹介